

プロジェクト研究

学びに向かう力を育成する教育の充実 － 未来につなぐキャリア教育の視点を通して（中学校） －

【 プロジェクト研究委員会メンバー 】

	職名	氏名	所属		職名	氏名	所属
1	学校支援総括	玉 木 亨	教科研修班	9	研究主事	渡久地 伸一	教科研修班
2	主任研究主事	グレイ 雅美	教科研修班	10	研究主事	小波津カヨ子	教科研修班
3	指導主事	我如古香奈子	教科研修班	11	研究主事	湧 川 博 美	教科研修班
4	研究主事	山 城 高 雄	教科研修班	12	研究主事	角 本 伸 枝	教育経営研修班
5	研究主事	高江 洲 奈	教科研修班	13	研究主事	上原 久美子	特別支援教育班
6	指導主事	下 地 農	教科研修班	14	研究主事	高見 伸 江	理科研修班
7	指導主事	湧 川 泰 成	教科研修班	15	研究主事	塩 浜 浄	産業教育班
8	研究主事	前 城 優 子	教科研修班	16	研究主事	上 原 琢 磨	I T教育班

【 プロジェクト研究委員会サポートメンバー 】

	職名	氏名	所属		職名	氏名	所属
1	主任研究主事	新 城 啓 弥	教育経営研修班	8	指導主事	屋 良 陽 子	理科研修班
2	主任研究主事	湧 武 真 也	特別支援教育班	9	研究主事	名 嘉 克 弥	理科研修班
3	主任研究主事	上江 洲 卓	理科研修班	10	研究主事	山 城 富	理科研修班
4	主任研究主事	上唐 由紀子	産業教育班	11	研究主事	兼次 あかね	産業教育班
5	研究主事	仲 間 貴 彦	教育経営研修班	12	指導主事	佐 久 本 厚	産業教育班
6	研究主事	大城 エリカ	教育経営研修班	13	研究主事	仲宗根 一成	産業教育班
7	研究主事	朝 倉 康 介	特別支援教育班	14	指導主事	岸 本 博 次	産業教育班

【 研究協力校及び研究協力員 】

	学校名	職名	氏名	教科名等
1	北中城村立 北中城中学校	校 長	照屋 心一郎	
2		教 諭	長 渡 聖	国 語
3		教 諭	我如古 優子	社 会
4		教 諭	島 袋 幸 枝	数 学
5		教 諭	川上 弘太郎	理 科
6		教 諭	久保田 知世	音 楽、研究主任
7		教 諭	浜 崎 美 奈	美 術
8		教 諭	安 里 亮	保健体育
9		教 諭	石 川 一 彦	技術・家庭、総合的な学習の時間
10		教 諭	砂 川 翔	外国語
11		教 諭	花 城 清 生	総合的な学習の時間
12		教 諭	佐久本 博美	特別支援教育

プロジェクト研究 目次

I	はじめに	我如古香奈子 湧川博美	1
II	研究内容	我如古香奈子	2
1	学びに向かう力について		2
(1)	学びに向かう力とは		2
(2)	学びに向かう力を育むために		2
2	未来につなぐキャリア教育の視点について		3
(1)	過年度プロジェクト研究におけるキャリア教育について		3
(2)	学びに向かう力を育成するためのキャリア教育の取り入れ方について		4
3	研究協力校について		5
III	実践研究	我如古香奈子	6
実践1	特別活動	我如古香奈子	7
実践2	国語	下地農	8
実践3	社会	我如古香奈子 小波津カヨ子	12
実践4	数学	山城高雄 湧川泰成	16
実践5	理科	高見伸江	20
実践6	音楽	高江洲奈	24
実践7	美術	渡久地伸一	28
実践8	保健体育	前城優子	32
実践9	技術・家庭	上江洲卓	36
実践10	外国語	グレイ雅美	40
実践11	総合的な学習の時間	塩浜浄	44
実践12	特別支援教育	上原久美子 湧武真也 朝倉康介	48
IV	実践の考察と普及	我如古香奈子	50
1	実践1「キャリア発達 新たな一歩」に対する考察		50
2	実践2～12「各教科等の実践」に対する考察		52
3	学校全体における変容		53
4	実践1～12の普及		54
V	まとめ	我如古香奈子	54
1	成果		54
2	課題と今後の展望		54
VI	おわりに	我如古香奈子	54

〈主な参考文献〉

〈フライヤー〉

学びに向かう力を育成する教育の充実

—— 未来につなぐキャリア教育の視点を通して（中学校） ——

キーワード 学びに向かう力 キャリア教育の視点 主体的に学習に取り組む態度
「かふやみ力」 「かふやみ20の力」 児童生徒学習用動画
「キャリア発達 新たな一歩」 「未来シート」 中学校
各教科等の目標(3) 単元デザイン 主体的・対話的で深い学び



I はじめに

「人生100年時代」と言われる今日、Society5.0と呼ばれる新たな時代の到来により、社会の在り方そのものが大きく変わる状況が生じつつある。このように目まぐるしく変化する予測困難な社会では、幼児児童生徒に対して、確かな学力を身に付けさせることや、協働しながら新たな価値を生み出し主体的に社会に関わっていこうとする態度を今まで以上に育むことが求められている。

中央教育審議会(2021)の『令和の日本型学校教育』の構築を目指して(答申)」（以下、2021答申）において、学びに向かう力は、「学習の目標や教材について理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、学習の進め方を自ら調整できるよう、発達の段階に配慮しながら育成することが大切である」と述べられている。また、学ぶことと将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、各教科等の特質に応じてキャリア教育の充実を図ること等も示されている。つまり、学びに向かう力の育成には、キャリア教育の充実が肝要であると考えられる。

「沖縄県教育振興基本計画(令和4年度～令和13年度)」(以下、県教育計画)では、教育の目標を「自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力と粘り強さをもつ幼児児童生徒を育成する」と提唱している。特に、小・中学校では、「自己肯定感を育み、協働して様々な課題を解決していく態度の育成」、高等学校では「目的意識の明確化を図ることで主体的に学ぶ意欲の向上」が掲げられている。そのためには、「子どもに学ぶ目的や意義を自覚させるとともに、自ら考え、計画して、行動に移すことのできるようキャリア教育の視点で学習意欲を高める取組を進めていく必要がある。」と打ち出されている。

そのような中、本県児童生徒の実態として、令和3年度全国学力・学習状況調査質問紙から、「違う意見について考えるのは楽しい」「思いや考えをもとに新しいものを作り出す活動を行っている」に対して肯定的な回答が低く、課題として挙げられる(以下、R3学調課題)。また、「沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトII」(以下、PPII)では「中学校期の学力課題の改善」を重点事項の一つとして挙げている。さらに、令和3年度に当教育センターで教職員向けに実施した出前研修や夏期短期研修におけるアンケートから、学びに向かう力の捉えや主体的に学習に取り組む態度の評価に関する困り感があることが分かった。

そこで、本研究では「学びに向かう力を育成する教育の充実」をテーマに中学校において研究を進める。各教科等の特質に応じた授業改善を図り、生徒の学びに向かう力の育成を図っていく。その際、過去のプロジェクト研究におけるキャリア教育の理論を活用する。具体的には、『中学校学習指導要領(平成29年告示)』(以下、『指導要領』)の各教科等における目標(3)に着目し、キャリア教育の視点を踏まえた授業改善を図る。特に、単元など内容のまとまりにおける主体的に学習に取り組む態度を見取るまでの授業例を単元デザインとして提示する。何より、県内中学校において汎用性のある実践となることに留意して取り組んでいく。そして、本研究終了後は学校現場へ研究内容を提供し、学校教育の充実や学校支援に資することを目指す。

なお、本稿では2021答申や県教育計画等以外にも、次のように各種資料等を表記する。

本稿での表記	正式名称
『総則編』	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編』
2016 答申	中央教育審議会(2016)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」
2019 報告	文部科学省(2019)「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」
2022 参考資料	文部科学省(2022)「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料(令和3年3月版)」

Ⅱ 研究内容

1 学びに向かう力について

(1) 学びに向かう力とは

学びに向かう力という言葉は、2016答申において、「生きる力」を具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力の柱の一つとして提言された用語である。『総則編』では、「学びに向かう力、人間性等」として明示されており、その他の答申等においても「学びに向かう力、人間性等」と記されている場合が多い。この「学びに向かう力、人間性等」について、『総則編』では、どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るかという学びを人生や社会に生かそうとする資質・能力であることが述べられている。加えて、他の二つの資質・能力である「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素であることも指摘されている。そして、2022参考資料では図1の記載がある。

「学びに向かう力、人間性等」は児童生徒が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる資質・能力であり、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素です。具体的には主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等があり、自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力を含むものです。また、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等に関するものも幅広く含まれます。

図1 学びに向かう力、人間性等について（下線は本稿執筆者による）

この記載から、明確に読み取れることが二つあると考える。一つ目は、下線部分より「主体的に学習に取り組む態度」は学びに向かう力であるということである。二つ目は、文末の「リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやり」は人間性等を意味しているということである。その他の部分に関しては、読み手によって様々な解釈があると考えられる。つまり、学びに向かう力と人間性等は切り離して考えることは容易ではなく、むしろ相互に連動し合っているものと捉える方が自然である。また、2021答申において「学びに向かう力、人間性等」の見取りは、表1のように①、②があると指摘されている。このことから学びに向かう力を主体的に学習に取り組む態度として見取ることを通して、その力が育まれたかどうかを判断することができると考える。

以上より、本研究において学びに向かう力を育成するとは、『指導要領』における各教科等の目標(3)の育成を目指すことと捉える。そして、学びに向かう力が育まれたかどうかは「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価を通して見取ることとする。

表1 「学びに向かう力、人間性等」の見取り

①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分と、
②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。

(2) 学びに向かう力を育むために

2019報告において、学びに向かう力を主体的に学習に取り組む態度として見取る際に、次の2点に留意する必要があることが指摘されている。①粘り強い取組を行おうとする側面と、②自らの学習を調整しようとする側面である。つまり、学びに向かう力は一朝一夕に育めるものではなく、ある程度の時間を通して育み、その過程も踏まえて見取っていくことが重要である。よって教師には、①②に向かわせる授業づくり、授業改善が求められる。

具体的には、児童生徒自身に学習の目標や見通しを持たせるとともに、卒業時、あるいは年度末や学習単元末にどのような力が身に付いてほしいかを意識した単元デザインを行い、実際の授業において具現化していくことである。その際、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元デザインを行うことが鍵である。その実現のために『総則編』では、特に主体的な学びとの関係から「生徒が学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげるものが重要になる」ということが示されている。

このことから、本研究においては、キャリア教育の視点を取り入れていく。当教育センターでは、令和2～3年度にかけて、「一人一人のよさを未来へつなぐキャリア教育の在り方～カリキュラム・マネジメントの視点を通して～」というテーマの基にプロジェクト研究を行ってきた（以下、過年度プロジェクト研究）。そこで、これらの研究の成果を取り入れ活用しながら、各教科等において単元デザインを行い、学びに向かう力を育成する教育の充実を図っていくこととする。

2 未来につなぐキャリア教育の視点について

(1) 過年度プロジェクト研究におけるキャリア教育について

キャリア教育について、『沖縄県キャリア教育の基本方針』（2020）では「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育」と定義されている。そして、キャリア教育で育成すべき能力として「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4領域が示されている。さらに、これら4領域をそれぞれ「かかわる力・ふり返る力・やりぬく力・みとおす力」と言い換えている（表2）。

表2 キャリア教育で身に付けさせたい4つの力（視点）

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
かかわる力	ふり返る力	やりぬく力	みとおす力
多様な集団の中で他者とかかわる力、進んで考えや気持ちを伝え合う力、人や地域を大切に思う気持ちや感謝する心、協力する力、社会に参画し、社会を積極的に形成する力 など	行動を振り返り、改善につなげる力、自己の役割を理解する力、情報・助言を正しく理解し自分を見つめる力、自分の良いところを見つめる力 など	問題を発見できる力、問いを立てる力、課題に対応した計画を立案する力、計画を実行する力、発想（想像）する力、間違いや他人との違いをおそれない力、最後まで粘り強くやり通す力 など	将来を想像する力、自分の目標を設定する力、目標設定のために計画を立てる力、立てた目標を確認し次につなげる力、自ら主体的に判断して、キャリアを形成していく力 など

過年度プロジェクト研究では、これらに加え、本県で設定されているキャリア教育の目標や目指す児童生徒像も踏まえながら実践研究を行ってきた。具体的には、「かかわる力・ふり返る力・やりぬく力・みとおす力」をキャリア教育における視点とし、さらに、この4視点の頭文字をとって「かふやみ力」と称して、各教科等の単元や授業計画等において意識的に位置付けて展開し、その過程を例示した（図2）。

この実践を進めるには、教員自身がキャリア教育や「かふやみ力」、さらにその具体的な20の力（以下、「かふやみ20の力」）などについて理解を深めておく必要がある。そのため「キャリア教育 はじめの一步～目指す児童生徒像×4つの力～」というテーマで校内研修用動画を作成した（図3）。

この動画は「きゅーちゃん」というイメージキャラクターの進行で展開しており、キャリア教育の目標や「かふやみ20の力」への理解を深めながら、各校における児童生徒の伸ばしたい力を見つけていくことがゴールとなっている。また、研修スタイルとして講義だけではなく、複数人で作業するカードワーク等を取り入れている。このようなワークショップ形式での学びを取り入れることで、教員自身の「かふやみ力」を高めることも目的としている研修用動画である。表3はこれらの取組の主な成果と課題である。

表3 過年度プロジェクト研究における主な成果と課題

成果	授業づくりにおいて4つの力を意識することで、児童生徒が目的意識を持ち、友達とかかわり様々な意見に出合い、考えを深めたり主体的に学習や行事に取り組んだりする姿が見られた。教師の授業改善にもつながった。各実践事例等をWeb等で発信することで、各学校での利活用を促進した。
課題	児童生徒の「今」と「これから」を結び付け「学ぶ意義」を明確にした授業づくりと、児童生徒が「自分のよさ」を認識し自己肯定感を高める取組の継続が必要である。学級や学年、各教科だけの取組だけではなく、学校全体としての取組が必要である。



図2 「かふやみ力」を位置付けた授業例の一部



図3 校内研修用動画（教師用）の一部

表3において、特に課題の部分に注目したい。「学ぶ意義」を明確にした授業づくりと児童生徒自身が自己肯定感を高める取組が求められていることが読み取れる。このことは、学びに向かう力の育成を図ることの重要性をうかがわせている。また、児童生徒の今とこれからを結び付ける点が弱かったということは、教員と児童生徒双方に、「みとおす力」や「ふり返る力」を意識することが弱かったとも捉えられる。これらより、『総則編』の具現化にあたって、学びに向かう力を育成するための授業づくりは喫緊の課題と言える。また、教員だけではなく、児童生徒自身もキャリア教育の視点を持った学習活動を行うことで、より一層、今と未来を意識するなど、新たな効果が見出せそうである。加えて、学校全体で行うことで、更なる相乗効果が期待できると考えられる。

(2) 学びに向かう力を育成するためのキャリア教育の取り入れ方について

本研究では、学びに向かう力を育成するために、教育活動全体にキャリア教育の視点を仕掛けていく。教員のみならず児童生徒にもキャリア教育の視点を意識させることを目指したい。そのために、過年度プロジェクト研究において作成した校内研修用動画をアレンジして児童生徒学習用動画を作成する。「キャリア発達 新たな一歩～自分×『力』×未来～」というテーマで作成し、一コマ（約50分程度）で学習できる内容とする。授業展開にあたっては「身に付けたい、伸ばしたい力を見つける！」を学習のゴールに据え、ワークシートを併用しながら「かふやみ力」及び「かふやみ20の力」への理解を深めさせていく。また、職員研修版と同様にグループ4人程度で行うカードワークを取り入れることで、協働しながら合意形成が図られることを意図していく。そして、授業のまとめでは、「かふやみ20の力」の中から、学年末までに身に付けたい、伸ばしたい力を3項目選ばせ、その理由を記述させる。以下、図4において、関連するワークシート等の教材を例示する。具体的な実践紹介やその効果については、本稿7頁と50頁に記載する。

「キャリア教育」学習用 児童・生徒向け動画

「キャリア発達」 新たな一歩

～自分×「力」×未来～

きやりーです、よろしくね！
進行役

制作 沖縄県立総合教育センター令和4年度プロジェクト研究委員会

①児童生徒学習用動画の表紙

「キャリア発達」新たな一歩～自分×「力」×未来～ ()月()日 ()年()組()番 氏名()

【今日のゴール】 身に付けたい、伸ばしたい力を見つける！

- 「キャリア発達」とは？ 社会の中で自分の()を果たしながら、自分らしい()を実現していく過程のこと
- 「キャリア発達」のために？ 自分で()、計画して、()に移すことができる
- 「かふやみ」から3つ選ぼう！ 【3つの「力」を選んで理由を記入しよう】
- この学習を終えて、自分の気持ちを次の中から3つ選び○をつけよう。その他の気持ちがある場合は、中央の口の中に記入しよう。

楽しい	むずかしい	わかった
やりたない	伝えたい	大変だ
見つけた	不安だ	おどろいた
すっきり	わくわく	こまった
うれしい	ありがた	

【3つの「気持ち」を選んで理由を記入しよう】

今日の気持ちを伝えてね！

②ワークシート

「かふやみ」分類の例(児童・生徒用)

かかわる力	ふり返る力	やりぬく力	みとおす力
か ① 多様な集団の中で他者とかわる力	ふ ① 行動を振り返り、改善につなげる力	や ① 問題を発見できる力(問いを立てる力)	み ① 将来を想像する力
か ② 進んで考えや気持ちを伝え合う力	ふ ② 自己の役割を理解する力	や ② 計画を実行する力	み ② 自分の目標を設定する力
か ③ 人や地域を大切に思う気持ちや感謝する心	ふ ③ 情報・助言を正しく理解し、自分を見つける力	や ③ 課題に対応した計画を立案する力	み ③ 目標設定のために計画を立てる力
か ④ 協力する力	ふ ④ 自分の良いところを見つける力	や ④ 発想(想像)する力	み ④ 立てた目標を確認し次につなげる力
か ⑤ 社会に参画し、社会を積極的に形成する力		や ⑤ 間違いや他人との違いをおそれない力	み ⑤ 自ら主体的に判断して、キャリアを形成していく力
		や ⑥ 最後までねばり強くやり通す力	

③カードワーク用の台紙とカードセット

④「かふやみ20の力」一覧表

『沖縄県キャリア教育の基本方針』(令和2年)参照

図4 「キャリア発達 新たな一歩」(児童生徒学習用動画)で用いる教材等

本研究では、この動画による学習を特別活動における学級活動で実施する。そして、その後の各教科等における授業実践に図5のようなシートを用いることで生かしていく。これは、単元学習の最初に「かふやみ20の力」から本単元学習において伸ばしたいと思う力を児童生徒自身が選び、単元末に顔マークを用いて自己評価することで自らの変容を確認できるシートである。その際、選択したもの以外にも「伸びた！」と自己評価する力についても記入できる欄を設けている。また、なぜそのような自己評価をしたのか、その理由も記述するように作成している。

本研究では、このシートを「未来シート」と名付けることで、児童生徒に親しみや高揚感を持たせながら各教科等において運用していくこととする。そうすることで、児童生徒自身が単元学習において、より一層、見通しを持って取り組み、その過程や達成状況を自己評価して次につなげるなど、学習の進め方を自ら調整することを期待したい。同時に、教員と児童生徒双方がキャリア教育の視点を持って学習活動にアプローチしていくことで、未来につなぐキャリア教育の充実を図るとともに、学びに向かう力の育成に働きかける有効な手立てとなることを目指す。そして、本県がP P IIで重点事項の一つとして挙げている「中学校期の学力課題の改善」の一助となることも視野に、北中城村立北中城中学校を研究協力校として取り組むこととする。

3 研究協力校について

北中城村立北中城中学校(以下、協力校)は、沖縄本島中部に位置する一村一中学校で、一学年5クラス、総職員数50名弱という規模の学校である。令和4年度の学校教育目標に「健康で明るく他を思いやり向上心を持って自ら学び行動できる生徒」を掲げ、「主体的・対話的で深い学びに向かう生徒の育成～キャリア教育の視点を活かした授業改善を通して～」を校内研修テーマとしている。これは、本研究のテーマと合致している。

そこで、共に足並みをそろえながら生徒の学びに向かう力を育成するために、キャリア教育の視点を各教科等の授業を中心とする学校教育活動に取り入れていくこととした。そのために、協力校において表4のように研修計画等を企画した。そして、校内研修①～④と並行しながら、各教科等において、研究協力員(以下、協力員)を設定し実践研究を進めることとした。

当教育センターの使用施設等の都合上、「総合的な学習の時間」は6月実施となったが、その他の教科等については、8月に実施している「夏期短期研修講座」も活用しながら協力員と単元デザインを企画していった。また、8月末の二学期開始時に「キャリア発達 新たな一歩」児童生徒学習用動画を取り入れた学級活動を設定した。この学習を踏まえて、各教科等における学びに向かう力の育成を目指し、「未来シート」を取り入れた授業実践を開始することとした。

科	【自分×「力」×未来シート】 ()年()組()番 氏名()			
1. 単元名				
2. この単元学習で伸ばしたい力	か②	ふ①	や③	み⑤
3. 単元学習後の自己評価	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊
4. 2以外にも伸びたと思う力	ふ③			
5. 3と4の理由	なぜなら・・・			

単元学習始めに記入

単元学習最後に記入

一例です!

図5 各教科等で用いるシート(通称「未来シート」)

表4 本研究に関連する協力校の研修計画等

月	主な内容
	★校内研修②～④は当教育センター主事が講師 ■本研究の実践1～12に該当する内容
4	校内研修①:「キャリア教育 はじめの一歩」の実施
5	★校内研修②:「予防的・開発的教育相談」の実施 [講師:大城エリカ]
6	事前アンケートの実施(教師・生徒対象) 研究授業:「かふやみ力」を位置付けた授業の実践 [実施教科(学年) 授業者:国語(1) 上地みこと教諭、理科(1) 眞喜志康太教諭、家庭科(2) 東町子教諭] ■生徒実習:「総合的な学習の時間」の体験学習 [場所:当教育センター産業教育棟、実施学年:第2学年]
8	当教育センター主催「夏期短期研修講座」(各教科別) ■学級活動:「キャリア発達 新たな一歩」の実施
9	★校内研修③:「学習評価」の実施 [講師:グレイ雅美・上原琢磨] ■実践研究:「かふやみ力」及び「未来シート」を取り入れた単元デザインの実践開始(～11月)
10	★校内研修④:「特別支援教育」の実施 [講師:上原久美子・湧武真也]
11	事後アンケートの実施(教師・生徒対象)

Ⅲ 実践研究

本研究では、各教科等において単元デザインを行っていくために表5のように計画した。このように、学校教育活動の大部分において本研究を実践した。具体的な各教科等の単元デザインにおいては、「未来シート」以外にも、パフォーマンス課題の設定やOPPシート等の活用、地域人材の活用など、各教科等特有の手立てを取り入れていくことにも留意した。キャリア教育の視点だけではなく、これら各教科特有の手立てとの相乗効果によって、学びに向かう力の育成を目指すこととした。特に、主体的・対話的で深い学びからの授業改善となることや、県内中学校に汎用性のある実践となることを意図した。図6に本研究のイメージ図を示す。

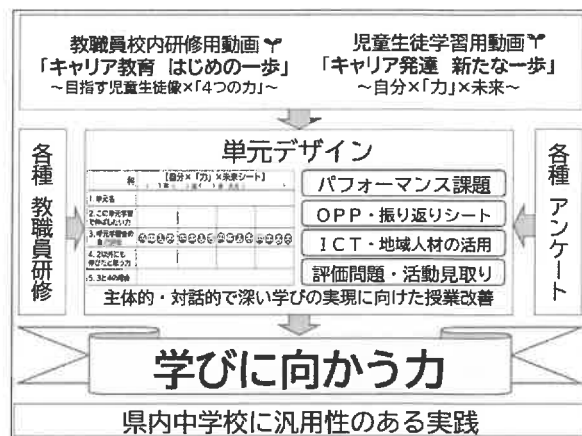


図6 本研究のイメージ図

表5 各教科等の実践単元や特有の手立て、及び研究協力員等一覧

実践番号	教科名等	学年	単元・題材名等	各教科等特有の主な手立ての例	協力員(授業者)	本稿掲載頁
実践1	特別活動(学級活動)	全	キャリア発達 新たな一步	動画、カードワーク ワークシート	久保田 知世 各学級担任	4、7、50
実践2	国語	3	おくのほそ道	俳句創作 振り返りシート	長 渡 聖	8～11
実践3	社会(地理的分野)	1	アフリカ州	パフォーマンス課題 OPPシート	我如古 優子	12～15
実践4	数学	3	関数 $y=ax^2$	考えの伝え合い 振り返り	島 袋 幸 枝	16～19
実践5	理科	3	力学的エネルギー	パフォーマンス課題 単元振り返りシート	川上 弘太郎	20～23
実践6	音楽	3	合唱	題材振り返りシート ワークシート	久保田 知世	24～27
実践7	美術	2	地域の魅力を伝える	パフォーマンス課題 地域人材の活用	浜 崎 美 奈	28～31
実践8	保健体育	1	バスケットボール	OPPシート 活動の見取り方	安 里 亮	32～35
実践9	技術・家庭(技術分野)	2	計測・制御のプログラミング	パフォーマンス課題 ワークシート	石 川 一 彦	36～39
実践10	外国語	2	Unit5 Earthquake Drill	パフォーマンステスト(課題) ワークシート	砂 川 翔	40～43
実践11	総合的な学習の時間	2	産業教育実践講座	ミッション(パフォーマンス課題) ICTの活用	石 川 一 彦 花 城 清 生	44～47
実践12	特別支援教育	支援 学級	SDGs 自分に できることを考えよう	特別支援教育の視点 ICTの活用	佐久本 博美	48～49

次頁より、実践事例を示す。また、実践2～11においては、各教科等の目標と実施単元の目標、及び評価規準について、関連性を踏まえて明記している(図7)。特に、教科の目標を踏まえ、各学校において設定することになっている単元の目標「学びに向かう力、人間性等」と単元の評価規準「主体的に学習に取り組む態度」に着目していただきたい(図7太枠部分)。また、単元デザインとしての「指導と評価の計画」だけではなく、「キャリア教育の視点を踏まえた授業改善」や「主体的に学習に取り組む態度」の評価の進め方とその評価の実践についても例示することとした。

○教科の目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1)	(2)	(3)

↓

○単元の目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1)	(2)	(3)

↓

○単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

図7 目標と評価規準の関係性を踏まえた表記例

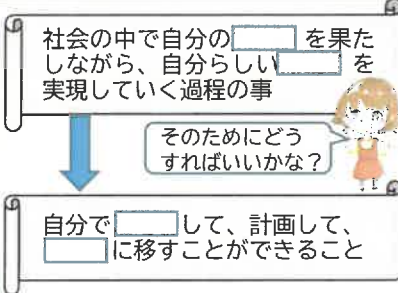
実践1 特別活動

題材名：「キャリア発達 新たな一歩」～自分×「力」×未来～

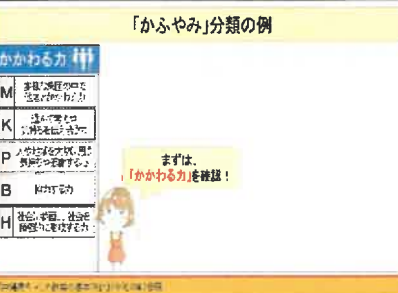
ねらい（ゴール）	学年末までに、「身に付けたい・伸ばしたい力」を見つける！		
準備物・配布物	①動画データ、②ワーク・振り返りシート[WS]（一人1枚） ③「かふやみ一覧表」（一人1枚 ※下図のステップⅡ-5の時に配布） ④カードセット[台紙4枚とカード20枚]（1グループに1セット） *全て、沖縄県立総合教育センターWeb ページ等からダウンロード可能		
学習形態	4人（または3人）で1グループ	所要時間	40分程度

実践の様子

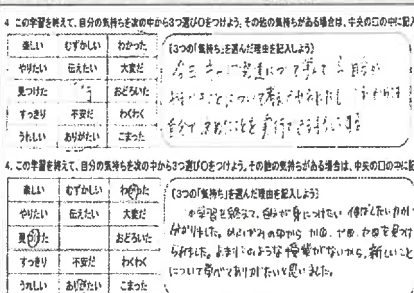
ステップⅠ 「キャリア発達の意味を理解しよう！」（約5分）

1. ねらいの確認	2. 「キャリア発達」とは	3. 育成すべき能力の確認
		
学習の流れと本時のゴールを全員で確認して、見通しを持つ。	キャリア発達の意味や目的をWSに記入して理解する。	キャリア発達に必要な力が「かふやみ」であることを理解する。

ステップⅡ 「キャリア発達のための力を確認しよう！」（約25分）

4. カードワーク	5. 「かふやみ一覧表」で確認	6. かふやみ 20 の力から選ぶ
		
グループで20の力（カード）を「か・ふ・や・み」に分類する。	20の力を「かふやみ一覧表」で確認し、理解を深める。	身に付けたい力を3つ選び、それを選んだ理由をWSに記入する。

ステップⅢ 「次の一歩へつなげよう！」（約10分）

7. 学習後の気持ちを確認	8. 7をグループ・全体で共有	9. キャリアパスポートへ
		
WSに例示された気持ちの中から3つ選び、その理由を記入する。	WSを回し読みや発表し、多様な感じ方があることを共有する。	ポートフォリオ用ファイルへ保管し、他教科等の学習で活用する。

実践2 国語

単元名：「私のほそ道～青春は旅人なり～」をテーマに
俳句を作ろう（第3学年）

○ 教科の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1)社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	(2)社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	(3)言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語感覚に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

○ 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1)歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。【〔知識及び技能〕（3）ア】	(2)文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えることができる。【〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと（1）ア】	(3)言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

○ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史的な背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、物語の展開の仕方などを捉えている。	進んで歴史的な背景などに注意しながら古典の世界に親しみ、学習課題にそって自作の句を発表し合い、自らの作品を調整しながら交流し創作しようとしている。

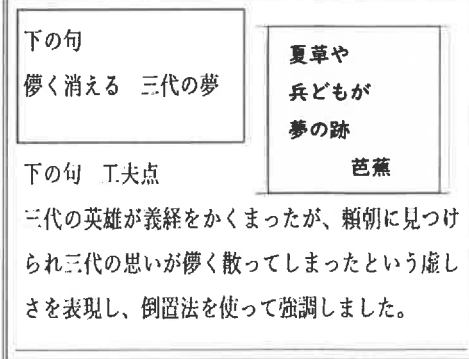
◎ キャリア教育の視点を踏まえた授業改善

「おくのほそ道」を読み、芭蕉の旅への思いを踏まえ、中学校生活を振り返って俳句を詠む。お互いの俳句を鑑賞し合い、交流する中で自らの作品を調整する。出来上がった俳句は「伊藤園お～いお茶新俳句大賞」に応募し自分の思いを表現する機会とする。単元初めに目標・単元計画と俳句創作を伝え、自分の身に付けたい力を「未来シート」で設定、単元終了時に自己評価と他にも伸びたと思う力を挙げさせ実践の効果を振り返る。

○ 指導と評価の計画（5時間）

◎記録に残す活評価 ○指導に生かす評価

指導と評価の計画					
時	学習活動	評価の観点			備考
		知	思	態	
1	①おくのほそ道を音読し古語の意味をおさえる。 ②歴史的仮名遣い・口語訳の確認 ③「月日は～」の一文から芭蕉が旅をなぜ人生にたとえて表現したのか、「旅」と「人生」の相違点を考える。	◎	◎	○	机間指導(ノート) 発言 芭蕉の旅に対する思いを、現代の旅と比較してまとめている(ノート記述)

	④旅に出る芭蕉の思いを俳句の表現技法から読み取る。	◎			
2	①平泉での芭蕉の涙の意味を「春望」の漢詩と比較して考える。 ②俳句と「平家物語」を比較し、心情を読み取る。	◎	○		平泉での芭蕉の涙の訳を句に込められた思いと共に関連づけて考えている。(記述) キャリア教育の視点を取り入れた未来シートの記入
3	①「立石寺」を音読し、「おくのほそ道」に取り上げられた俳句の表現技法を確認する。 ②俳句に込められた芭蕉の世界観と想いを想像する。	◎	○		俳句のイメージに合う画像の掲示(大型ディスプレイ)
4	①芭蕉の俳句の中から1句を選び、芭蕉の世界観を借りて下の句を読む。 ②工夫点や表現技法についてペアで交流しながら話し合い、振り返りシートに工夫点を記入する。  ③ロイロノートに提出し良い作品をみんなで鑑賞する。	○	○ ◎		評価ルーブリックを提示して下の句を推敲し、ロイロノートに入力して共有する。 【上の句:「夏草や兵どもが夢の跡」】  生徒の作品例
5	①「人生」もまた「旅人」と捉えた芭蕉の思いから、自分の中学校生活を一つの「旅」と捉えて自作の俳句を3句制作する。 ②グループで推敲を行い、工夫点や表現技法について交流し、振り返りシートに工夫点を記入する。「伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」への応募作品を選定する。 ③グループ内の優秀作品を全体で発表する。	○	◎	○	「未来シート」の単元学習後の自己評価 

○ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の進め方

具体的な進め方	評価材料
進んで歴史的な背景などに注意しながら古典の世界に親しみ、学習課題にそって自作の句を発表し合い、自らの作品を調整しながら交流し創作しようとしているかを見取る。	ワークシート 作品
芭蕉の旅への思いを踏まえ、中学校生活を旅と捉えて、振り返りながら句を創作しようとしているかを見取る。	行動観察 作品
俳句を創作する際、自分の考えが相手に伝わるか、他者の作品を読んだり、考えを聞いたりと調整しながら粘り強く工夫している様子を見とる。	振り返りシート

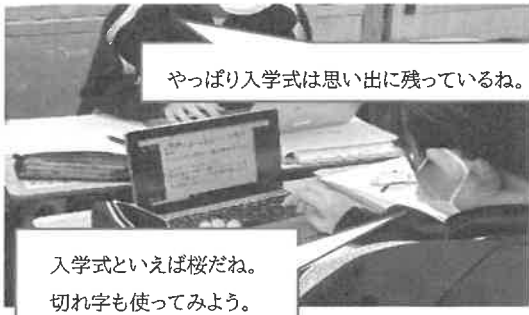
〈芭蕉の句に対する下の句作成に係るルーブリック〉

評 価	主体的に学習に取り組む態度
A	進んで古典の世界に親しみ句を作成・交流し、自作の句の推敲に生かしている。
B	進んで古典の世界に親しみ句を作成・交流し、伝え合おうとしている。
C	Bの基準を満たしていない

〈振り返りシート生徒の記述〉

A評価	下の句を作ったときに友達から「もっと動きを入れた方が伝わるのでは」と言われて少し動きの描写を入れるとすごく良くなったのでよかった。次の時間ではもっと上の句と関連付けて下の句を表現していこうと思った。
B評価	俳句を詠むとき、最初は何を詠めばいいのか分からなかったけど、友達の作品を見て、季語、置き字などの使い方を知り、私も「梅雨」を季語に使い、文章では雨だから悲しい感じを出したかったので「思い出ひたる」とつけました。
B評価	友達の俳句は体言止めを使ったところが良かった。自分の俳句は比喻表現がくどくて少し分かりにくいところもあったと思うのでもっと分かりやすい表現を意識しようと思った。アドバイスをから推敲する時間が無かったのもっと積極的な交流が必要だと思った。

○授業の様子(5/5 時間)

1 本時のねらい 「人生」もまた「旅人」と捉えた芭蕉の思いから、自分の中学校生活を1つの「旅」と捉えて自作の俳句を3句制作する。	
2 本時の評価規準(評価場面と方法) 進んで歴史的な背景などに注意しながら古典の世界に親しみ、学習課題に沿って自作の句を発表し合い、自らの作品を調整しようとしながら交流し創作しようとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕(振り返りシート・行動観察・成果物など)	
3 本時の展開	
指導と学習活動	評価(☆)と配慮事項(●)
(1)「おくのほそ道」より、俳句の定型と季語について説明し、代表的な芭蕉の句の表現技法とその効果について確認する。 (2)自身の中学校生活を振り返り、喜怒哀楽等の心が動いた瞬間を3句表現する。グループで選定し、一つをロイロノートの提出箱を用いて全体で共有し、鑑賞する。  「桜咲く」の句は入学式だね！ (3)作品を完成させて推敲した点や表現の工夫について句の紹介文にまとめ提出する。	☆切れ字に込められた思いや、表現技法の効果について確認し記述している。  やっぱり入学式は思い出に残っているね。 入学式といえば桜だね。切れ字も使ってみよう。 ●創作活動を行う上で、スピードに個人差があることが予想されるので季節や行事等、季語等を提示する。 ☆季語や定型に沿って、自分の心情を句の中で表現することができる。 ☆工夫・推敲した点をまとめることができる。

授業終了後振り返りシートから俳句を創作する際、他者と交流しながら推敲・改善しようとする過程について単元終了後の振り返りシートにて「主体的に学習に取り組む態度」を評価。ルーブリックは〈芭蕉の句に対する下の句作成に係るルーブリック〉と同じ。

〈振り返りシート生徒の記入〉

A評価	俳句の歴史を知り自分でももっと調べてみたいと思った。自分で俳句を作ると少ない文字数の中で気持ちを表現する言葉選びが難しいと思った。友達の俳句を見ると体言止めがうまかったので参考にした。自分でも表現を調べて次はもっとうまく作りたい。
B評価	俳句を作ってみて面白さが分かった。友達の俳句も上手だった。五七五の定型と季語を入れるのが難しかった。次は自分でももっと上手に作りたい。同じ場面でも受け取り方が違うので面白かった。

〈生徒作品〉

桜咲くみなときめくや体育館

工夫点：季語の「桜咲く」を用いて新学期を表し、切れ字の「や」を使って大人から見て周りの人はときめいているだろうかと疑問に思っている。

第八波やまぬ雨なし秋の晴れ

工夫点：いつまでも続くコロナ禍を雨にたとえ、人間界ではコロナの雨がやまないのに、自然界では雨が多いはずの秋にめずらしく晴れている空を対比させました。

君が笑むと夏みかんの匂いする

工夫点：爽やかな匂いが思い浮かぶように「夏みかん」を入れました。友達が笑った時に感じた、爽やかな青春を表現しました。

◎ 実践の効果

・「未来シート」の考察（人数は延べ人数）

かかわる力	39名	ふり返る力	18名	やりぬく力	43名	みとおす力	19名
-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----

単元前は「かかわる力」「やりぬく力」を多くの生徒が選んだ。友達と交流しながら俳句創作に取り組み、コンクールへの出品に向けてやりぬきたいという姿勢が見えた。学習後に身に付いた力も「かかわる力」12人、「やりぬく力」11人と多くの生徒が選んでおり、かかわりの中で自分の表現を調整しながら、俳句コンクールに向けて創作をやりぬいたことが伺える。単元後の顔マークによる自己評価では「かかわる力②」の「進んで考えや気持ちを伝え合う力」の◎マークを選んだ生徒が10名、「やりぬく力④」の「発想（想像）する力」の◎マークを選んだ生徒が12名と高い評価を付けた。

- ・協力員の感じた効果 「かかわる力」に課題を感じる生徒が多いので、良い機会となった。言葉で自分の気持ちを表現し、同学年の生徒と交流する機会を通して、自分の作品や表現方法を見直し、より相手に伝わるように調整する力を養い、「かかわる力」を伸ばすことができた。「伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」への応募を目標に、粘り強く作品の制作に取り組み、「やりぬく力」の育成につながった。
- ・生徒の「未来シート」への記述から読み取れる実践の効果 「俳句を詠むのが苦手で全然いい季語とか思いつかなかったけど友達と一緒に考えるといい俳句を作ることができ、いい言葉が思いつくようになった。自分の思い出を俳句で表すことができた。」「前もって自分の伸ばしたい力を選んでいたら自分が具体的に何をしたらいいのかわかったし、自分が今伸ばしたい力はここだけど、ここも伸ばした方が良くわかりやすいから、何をしたらいいのが分かった。」などという記述や「お〜いお茶新俳句大賞」へ挑戦から「かかわる力」「やりぬく力」を伸ばすことができ、「未来シート」の活用は「学びに向かう力の育成」に有効であったと考える。

実践3 社会

単元名：地理的分野「アフリカ州」（第1学年）

教科（地理的分野）の目標（3）「学びに向かう力、人間性等」

日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

単元の目標（3）「学びに向かう力、人間性等」

アフリカ州について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

単元の評価規準「主体的に学習に取り組む態度」

アフリカ州について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

○ 指導と評価の計画（全6時間）

※【記録に残す評価】◎＝ペーパーテスト、○＝単元振り返りシートの記述、☆パフォーマンス課題、【指導に生かす評価】●

時	学習課題等	ねらい ※第4時の学習内容の一部を第1時に取り入れた単元デザイン（次頁参照）	評価の観点		
			知	思	態
導入	1 アフリカ州と私	アフリカ州の課題と自分の生活とのつながりを発見する学習を通して、主体的にパフォーマンス課題を設定する。（※「かふやみ20の力」一覧表から本単元学習を通して身に付けたい力を選び「未来シート」に記入する。）		●	●
展開A	2 自然環境と気候	自然環境の特色を地図や主題図から読み取り、気候の特色を雨温図と植生から理解する。	◎	●	
	3 歴史と文化	植民地支配されていた歴史や宗主国との結びつきについて図表などから考察し、政治的・経済的な団結を目指していることを理解する。	◎	◎	
展開B	4 産業と課題	輸出用作物の栽培や鉱山資源の開発が盛んであることを資料から読み取り、特定の産業物の輸出に頼った経済の問題点を考察する。	◎	○	◎
	5 課題と必要な支援	課題（食料問題・医療問題等）とその対策について多面的・多角的に理解し、アフリカ州の発展のために必要な支援について追究、考察する。	◎	○	
まとめ	6 パフォーマンス	アフリカ州について学習してきたことを踏まえてパフォーマンス課題に取り組むことを通して、よりよい社会の実現を視野にアフリカ州に見られる課題を主体的に追究、解決しようとする。（※「未来シート」を記入する。）			☆

◎ キャリア教育の視点を踏まえた授業改善

本単元では「学びに向かう力」育成に向け、(ア)パフォーマンス課題、(イ)社会力アップシート、(ウ)アクティビティ、(エ)「未来シート」を取り入れた単元デザインを行う。この4つを取り入れることで、キャリア教育の視点を踏まえた授業改善となることを目指した。特に、(ア)では単元課題「アフリカ州に見られる課題は何か」を「25歳になった自分が海外協力隊としてアフリカ州の課題解決に行くために、社長を説得するプレゼンしよう!」とパフォーマンス課題として再設定した。下表に(ア)～(エ)とキャリア教育の視点（かふやみ）の関連性やその授業改善によってねらいとしたこと（期待される効果）を示す。

キャリア教育の視点を踏まえた授業改善			ねらいとしたこと（期待される効果）
手立て		関連する「かふやみ」や〈20の力〉の例	
（ア）パフォーマンス課題	25歳の海外協力隊を目指す自分	〔みとおす力〕 み①：将来を想像する力 み⑤：キャリアを形成していく力	「海外協力隊を目指す25歳」と設定することで、 <u>自分の将来を想像しやすくなる</u> ことを目指した。
	アフリカ州の課題解決に行く	〔かかわる力〕 か⑤：社会に参画し形成する力	「アフリカ州の課題解決に行く」と設定することで、 <u>社会参画意識がより一層、涵養される</u> ことを目指した。
	社長を説得するプレゼン	〔やりぬく力〕 や①：問題を発見できる力	「社長を説得するためのプレゼン」と設定することで、 <u>学習を通して見出したアフリカ州の課題を提示する</u> ことを目指した。
（イ）社会力アップシート （次頁に掲載）		〔みとおす力〕 み④：目標を確認し次につなげる力 〔ふり返る力〕 ふ④：自分を見つめる力	単元課題への考えを予想して見通しを持つとともに、毎時の振り返りを「R80」で行うことで <u>思考の変容を可視化して実感する</u> ことを目指した。
（ウ）アクティビティ		〔かかわる力〕 か②：進んで考えや気持ちを伝える力 か④：協力する力	適宜フォトランゲージやカードワーク等のアクティビティを取り入れることで、 <u>楽しみながら協働して考えを深め広げる</u> ことを目指した。
（エ）「未来シート」 （全教科共通）		〔みとおす力〕 み②：自分の目標を設定する力 〔ふり返る力〕 ふ④：自分の良いところを見つめる力	学習への見通しを持って身に付けたい力を選ぶとともに、学習後に自己評価をすることで <u>振り返る材料となる</u> ことを目指した。

○ 「主体的に学習に取り組む態度」【態】の評価の進め方

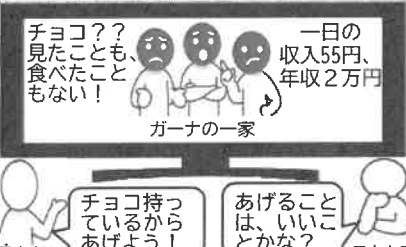
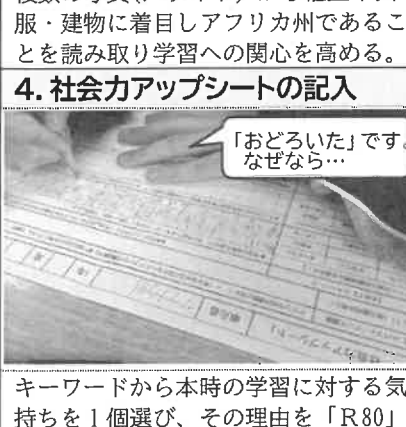
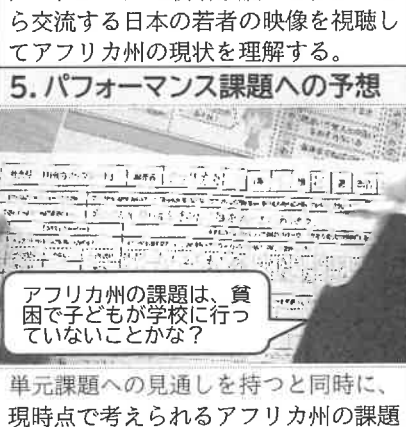
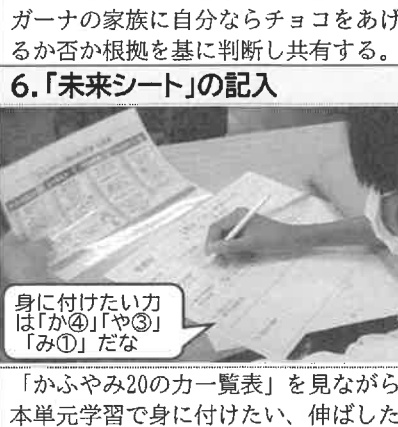
【態】は一朝一夕に育つものではなく、思考力・判断力・表現力とも連動しながら単元全体を通して育み、その高まりを見取っていくことが肝要である。そこで、下図の「社会力アップシート」と命名した1枚の単元振り返りシートを作成し用いた。第1～5時にかけて提示された8個のキーワードを基に「R80」による振り返りを行うシートである。第6時では別紙の構想シート(次頁掲載)も活用しながらパフォーマンス課題に取り組み、本シートの最下段に清書して発表する。授業者は本シートの「R80」を【思】、パフォーマンス課題を【態】の主たる評価材料とすることができる。

社会科	「社会力アップシート」	単元名	1年	組	番	氏名
【単元課題】⇒パフォーマンス課題		アフリカ州の課題は何か？⇒「青年海外協力隊」となってアフリカの課題解決に取り組むために社長にプレゼン(説明)しよう！」				
予想してみよう！(単元最初の考え)						
日	【めあて】とキーワード	★まとめ・ふりかえり(それ以外のキーワードがある場合は中央の口に入力しよう！)				
1	【アフリカ州への興味関心を高める】	★今日の授業を終えて、今の気持ちをキーワードから1つ選び「R80」で説明しよう。				
月	おどろいた かなしい ありがたい					
	知りたい 大変だ					
日	伝えたい 不思議だ こまった					
2	【自然環境にはどのような特色がみられるか】	★アフリカ州の自然環境の特色を赤道からの距離に着目して、キーワードを使って「R80」で説明しよう。				
月	ナイル川 サハラ砂漠 熱帯林					
	砂漠化 雨季と乾季					
日	エチオピア高原 サヘル サバナ					
3	【どのような歴史・文化がみられるか】	★植民地時代の影響はどのようなところに見られるか、キーワードを使って「R80」で説明しよう。				
月	奴隷 アフリカ選出 アパルトヘイト					
	植民地 多様な民族・言語					
日	紛争 ヨーロッパ 信仰					
4	【産業の特色と課題はどのようなことか】	★アフリカ州の経済について、最も印象的だったキーワードを2つ選び「R80」で説明しよう。				
月	輸出作物 鉱山資源 レアメタル					
	モノカルチャー経済 フェアトレード					
日	外国企業 安い賃金 子ども兵士					
5	【アフリカが抱える課題と必要な支援は何種】	★アフリカ州での課題とその取り組みについて、最も印象的だったキーワードを2つ選び「R80」で説明しよう。				
月	人口増加 食料不足 栄養不足					
	砂漠化 エイズ/マラリア					
日	都市化 NGO 青年海外協力隊					
6. 【単元課題(パフォーマンス課題)】「青年海外協力隊」となってアフリカの課題解決に取り組むために社長にプレゼンしよう！」に対する単元最後の考え						
月	パフォーマンス課題へのルーブリック例	A評価	よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的かつ具体的に追究、解決しようとしている。			
B評価		よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。				
C評価		(B評価以下の場合)				

※「R80」について
(アール・エイティ)
ふり返し(Reflection)を
二文 80 文字で書く手法。
二文を「なぜなら」等の接続
詞でつなぎ、後文は前文の
根拠となる記述を目指す。

○ 授業の様子(第1時・第4時・第6時の主な活動を紹介)

【第1時】アフリカ州の抱える課題と自分のつながりを見だし、アフリカ州学習への見通しを持とう！

1. フォトランゲージ  たくさん人がいて、活気にあふれているね！どこの州かな？	2. 映像視聴  チョコ?? 見たことも、食べたこともない！ 一日の収入55円、年収2万円 ガーナの一家 チョコ持っているからあげよう！ あげることは、いいことかな？	3. グループワーク・全体共有  あげた方がいいと思う。おいしいものを作っているという自信にもなるんじゃないかな...
4. 社会力アップシートの記入  「おどろいた」です。なぜなら... キーワードから本時の学習に対する気持ちを1個選び、その理由を「R80」で記入してグループ等で共有する。	5. パフォーマンス課題への予想  アフリカ州の課題は、貧困で子どもが学校に行っていないことかな？ 単元課題への見通しを持つと同時に、現時点で考えられるアフリカ州の課題を社会力アップシートに記入する。	6. 「未来シート」の記入  身に付けたい力は「か④」「や③」「み①」だな 「かふやみ20のカ一覧表」を見ながら本単元学習で身に付けたい、伸ばしたい力を2項目以上選び記入する。

○ 「主体的に学習に取り組む態度」【態】評価の実際

パフォーマンス課題に取り組むにあたり「構想シート」を用いた(前頁参照)。このシートにより、段階的に構想しやすくなるだけではなく、粘り強く取り組むことも期待できる。前々頁の「社会力アップシート」の第6時の欄に例示したルーブリックを基に評価を行った。その中から評価AとBとなった2名の生徒の記述を紹介する。この2名は25歳の自分の職業を想像し、アフリカ州の課題について学習内容を踏まえて捉え、その解決のために自分にできることを記述しており、よりよい社会の実現を視野に構想していることが読み取れる。特に、生徒aは生徒bに比べてイメージしている職業と課題解決案がリンクしている点やその解決案が主体的かつ具体的に述べている点をA評価と判断した。

評価	生徒がパフォーマンスした記述
A	[生徒a] 私は海外協力隊になって「モノカルチャー経済」について取り組みたいです。モノカルチャー経済だと収入が安定せず食料も買えないし、モノカルチャー経済の鉱物があることで子ども兵士も引き起こしているからです。私は中学生の時、アフリカ州の学習でこのことを学んだ時からアフリカの現状をSNSで拡散して改善しないといけないと訴える活動をしてきました。美容・ファッション関係の仕事について今、農産物や鉱物以外にも収入を得ることができる産業もあることを教えて少しでも課題を減らしに行きたいです。
B	[生徒b] 私は海外協力隊になって「食料問題」について取り組みたいです。急激な都市化で人口が増加し、スラムや農村が食料問題で餓死する人が出ている、自分がこんなことになっていたら助けて欲しいと思うからです。私は中学生の時、アフリカ州の学習で、このことを学んだ時からアフリカの課題についてもっと調べたりしてきました。飲食業者となった今、食料問題を中心にアフリカの課題を解決に行きたいです。

◎ 実践の効果

キャリア教育の視点を踏まえた本実践の授業改善による効果について、生徒への事後アンケート(下表)や「未来シート」の記入と内容、及び協力員(授業者)の感想等を基に考察する。[n=112]

Q1:「考える力や書く力」は以前より高まったか？ ⇒肯定的回答89%	
理由	[生徒c]社会力アップシートにキーワードがあり 80 字にまとめることで自分の伝えたいことを書きやすくなった。 [生徒d]一枚の振り返りシートだと前時も振り返りしやすく、めあてとつなげて考えることができたから。 [生徒e]グループ活動することで考えることを意識して意見を出し合えたし、なぜだろうと調べるようになった。
Q2:自分が何かをすることで少しでもよりよい社会になるという気持ちは以前より高まったか？ ⇒肯定的回答93%	
理由	[生徒f]なりたいたい仕事と関連させて、将来こうする！と考えながらパフォーマンス課題に取り組めたから。 [生徒g]協力隊の自分を想像しながらアフリカのことを考えることで自分でもできることがあると気づけたから。 [生徒h]アフリカの社会をより良くするための考えを立案することができたから。
Q3:「未来シート」を活用したことで、身に付けたい力を以前より意識して取り組めたか？ ⇒肯定的回答 88%	
理由	[生徒i]身に付けたい力をシートに書くことで目標がわかり、こうしようと確認しながら取り組めたから。 [生徒j]どの力を身に付けたいかで授業への気持ちが変わったし、自分がふり返ったことがわかりやすくなった。 [生徒k]目標があることで次のことも考えながら取り組めた。それ以上の身に付けたい力も身に付いたから。

「未来シート」における生徒の自己評価(複数選択可とした)						
n=112	学習前の 選択延数	学習後の自己評価				学習後の 選択延数
		😊	🙂	😐	😞	
かかわる力	96	41	45	9	1	48
ふり返る力	34	14	16	3	1	17
やりぬく力	102	39	52	9	2	67
みとおす力	43	22	15	4	2	46

社会科

【自分×「力」×未来シート】

(1)考える力 (2)書く力

1. 自分名

2. この授業で学んだこと

3. 未来の自分の姿

4. 未来の自分に必要な力

5. 社会の現状

[生徒m]社会の人々のために今の自分のやるべきことについて考えられた。また、将来の事についても深く考えることができた。自分の伸びていない力を伸ばすために、いろいろな問題を考え解決に向かう計画も考えられたから。

上表Q1から社会力アップシートやアクティビティによって、思考力・判断力・表現力の高まりを感じることが読み取れる。特に、さらに調べてみたという行動変容から主体的に学習に取り組んでいる様子が感じられる。Q2では、自分の将来を想像しながら社会参画意識が涵養された点が読み取れることから「かふやみ」を踏まえたパフォーマンス課題の設定による効果と考えられる。Q3からは、学習への見通しを持って身に付けたい力を選んだことや、学習後に自己評価をすることで振り返る材料となっていることから「未来シート」の有効性が感じられる。左表からもその効果が読み取れる。特に、右上に例示した生徒mは学習前に[か⑤][や①]を選択し、学習後には😊と🙂マークの自己評価を行い、さらに身に付いた力として[み①][ふ②]を選択している。そのように振り返った理由を読むと、社会貢献を視野に自分の役割を見出そうとしたことだけではなく、本単元における目標達成のために試行錯誤しながら学習に取り組んだ様子もうかがえる。

協力員も本実践について様々な効果を感じている。まず、「社会力アップシート」について、焦点を絞った記述が増えていることや、自主的に他者と比較したり、教師に見せに来ていたとその効果を指摘している。また、アクティビティによって積極的に授業に参加する生徒が多くなってきたことを痛感しており、社会科教科会でも主体的・対話的な手法だと大変好評であった。さらに、パフォーマンス課題を位置付けた授業に対しても単元学習始めにその課題を提示することで見通しを持つようになり、日々の授業の中でも課題を意識しながら取り組む生徒が多くなったと述べていた。そして、次単元でも取り入れて実践を続けている。以上より、キャリア教育の視点を踏まえた授業改善による本実践は、学びに向かう力の育成に有効であったと捉える。

実践4 数学

単元名： 関数 $y=ax^2$ （第3学年）

○ 教科の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

○ 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1) 関数 $y=ax^2$ についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	(2) 関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。	(3) 関数 $y=ax^2$ について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けている。

○ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 関数 $y=ax^2$ について理解している。 ② 事象の中には関数 $y=ax^2$ として捉えられるものがあることを知っている。 ③ 関数 $y=ax^2$ を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。 ④ いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解している。	① 関数 $y=ax^2$ として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ② 関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	① 関数 $y=ax^2$ の必要性和意味を考えようとしている。 ② 関数 $y=ax^2$ について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③ 関数 $y=ax^2$ を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

◎ キャリア教育の視点を踏まえた授業改善

「未来シート」の活用として、「かふやみ力」をバランスよく育む観点から「2. この単元学習で伸ばしたい力」を、「か」「ふ」「や」「み」それぞれの力の中から1つずつ生徒に選択させた。「か」「ふ」「や」「み」それぞれの力の中で、最も多くの生徒が選択した力は、次の通りである。
か④：協力する力（69人 44%） ふ①：行動を振り返り改善につなげる力（89人 56%）
や⑥：最後までねばり強くやり通す力（81人 49%） み②：自分の目標を設定する力（72人 46%）
数学的に考える資質・能力全体を育成する上では、自立的・協働的に問題を解決することを通して指導することが重要である。その際、数学的な表現を用いて伝え合う場面を設定する必要がある。
そこで、本単元の学習指導に当たっては、互いに自分の考えを表現し伝え合う活動と、問題解決の過程を振り返る活動を充実させ、主体的に学習に取り組む態度の育成を図ることとした。

○ 指導と評価の計画（全 15 時間）

本単元「関数 $y=ax^2$ 」を内容のまとまりである 4 つの小単元（計 14 時間）と単元のまとめで構成し、それぞれの授業時間数を次のように計画した。

小単元等	授業時間数
1. 小単元 1 「事象と関数 $y=ax^2$ 」 (第 1 時・第 2 時)	2 時間
2. 小単元 2 「関数 $y=ax^2$ の特徴」 (第 3 時～第 9 時)	7 時間
3. 小単元 3 「関数 $y=ax^2$ の利用」 (第 10 時～第 13 時)	4 時間
4. 小単元 4 「いろいろな事象と関数」 (第 14 時)	1 時間
単元のまとめ (第 15 時)	1 時間
	14 時間
	1 時間

生徒全員の学習状況を、評価基準に照らして毎時間の記録に残し、総括の資料とすることは現実的ではない。日々の授業の中では、生徒の学習状況を適宜把握して指導に生かす評価を行う。記録に残す評価については、内容のまとまりの中で評価場面の精選を図り、実現状況が把握できる段階で行う。

各授業時間の指導のねらい、おもな学習活動及び重点、評価方法等は次のとおりである。ここで表中の「重点」は、生徒の学習状況を重点的に見取る評価の観点を表している。

時	指導のねらい	おもな学習活動	重点	記録	評価方法等
1	関数 $y=ax^2$ の意味を理解する。	球が斜面を転がる場面で、時間と距離の関係を調べる。	知 態		知①：評価問題 態①：振り返り
2	関数 $y=ax^2$ の意味を理解し、 $y=ax^2$ の式に表すことができる。	y を x の式で表して、 y は x の 2 乗に比例するかどうかを調べる。	知 態	○	知②：評価問題 態①：振り返り
3	関数 $y=x^2$ のグラフの特徴を理解する。	関数 $y=x^2$ のグラフをかき、グラフの特徴を調べる。	知 態		知③：評価問題 態①：振り返り
4	関数 $y=x^2$ と $y=2x^2$ のグラフ、関数 $y=2x^2$ と $y=-2x^2$ のグラフの関係を理解する。	関数 $y=2x^2$ と $y=-2x^2$ のグラフをかき、グラフの特徴を調べる。	知 態	○	知③：評価問題 態①：振り返り
5	関数 $y=ax^2$ のグラフの特徴を理解する。	関数 $y=ax^2$ のグラフについて、 a の値をいろいろにとって、その特徴を調べ、まとめる。	知 思 態		知③：評価問題 思①：評価問題 態①：振り返り
6	関数 $y=ax^2$ の値の変化の特徴を理解する。	関数 $y=ax^2$ の値の増減について調べる。	知 思 態	○	知③：評価問題 思①：評価問題 態①：振り返り
7	関数 $y=ax^2$ の変化の割合を求めることができる。	1 次関数と関数 $y=ax^2$ の変化の割合を比べ、その特徴を調べる。	知 態		知③：評価問題 態①：振り返り
8	関数 $y=ax^2$ で、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる。	関数 $y=ax^2$ で、 x の変域に対応する y の変域を調べる。	知 態		知③：評価問題 態①：振り返り
9	具体的な事象において、関数 $y=ax^2$ の変化の割合の意味を考え、説明することができる。	ジェットコースターの例で、変化の割合がどんなことを表しているかを考える。	思 態		思①：評価問題 態②：振り返り
10	具体的な事象の中の 2 つの数量の関係を関数 $y=ax^2$ とみなして、問題を解決することができる。	自動車の走行時の速さを、速さとブレーキ痕の長さの関係をもとにして予想する。	思 態	○	思②：評価問題 態②：振り返り
11	具体的な事象の中の 2 つの数量の関係を関数 $y=ax^2$ で捉え、問題を解決することができる。	身のまわりの問題を、関数 $y=ax^2$ を利用して解決する。	思 態	○	思②：評価問題 態③：振り返り
12	放物線と直線の 2 つの交点の座標や 2 つの交点を通る直線の式を求めることができる。	放物線と直線 2 つの交点の座標や 2 つの交点を通る直線の式を求める。	思 態		思②：評価問題 態②：振り返り
13					
14	いろいろな事象の中から関数関係を見だし、変化や対応の特徴を捉え、説明することができる。	いろいろな事象の中から関数関係を見つけ、その変化や対応の様子を調べる。	知 態		知④：評価問題 態②：振り返り
15	単元のまとめ			○ ○	知①～④ 思①・② ：単元テスト

○ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の進め方

本単元において「主体的に学習に取り組む態度」は、関数 $y=ax^2$ のよさを実感して必要性和意味を粘り強く考え、関数 $y=ax^2$ について学んだことを生活や学習に生かそうとする態度、関数 $y=ax^2$ を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けているかどうかを評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、知識及び技能を習得させたり、思考力、判断力、表現力等を育成したりする場面に関わって行うものである。日々の授業の中では、他の観点に関わる生徒の学習状況と照らし合わせながら行動を観察し、指導に生かす評価を行う。記録に残す評価については、学習活動を通して身に付けた態度を評価するため、単元末または内容のまとまりの区切りで評価場面を設定する。

内容のまとまりである小単元3「関数 $y=ax^2$ の利用」において、評価規準「関数 $y=ax^2$ を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている」の記録に残す評価を、次のように行った。

<第11時>

本時のねらい

具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を関数 $y=ax^2$ で捉え、表や式、グラフを利用して問題を解決することができる。

本時の評価規準

関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる(思②)。

関数 $y=ax^2$ を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている(態③)。

本時の展開

学習指導の概要

*電車と自動車の動きを観察させる(写真①)。

【問題提示】

電車が地点Aを出発してから60秒後までは、 x 秒間に $0.25x^2$ m進みます。

自動車が秒速10mで走るとき、電車が自動車に追いつくのは、地点Aを出発してから何秒後でしょうか。

*結果を予想させる(写真②)。

*問題解決に必要な条件を確認する。

【めあて】

電車が自動車に追いつくまでの時間を求めるには、何をどのように用いればよいだろうか。

*個人で考えさせる(写真③)。

*ペアで考えさせる(写真④)。

*グループで考えさせる(写真⑤)。

*グループの考えを比較させる(写真⑥)。

*全体で共有させる(写真⑦)。

表を利用して求めた生徒に発表させる。

式を利用して求めた生徒に発表させる。

グラフを利用して求めた生徒に発表させる。

【まとめ】

追いつくまでの時間 x (秒) を求めるには、出発してから進んだ道のり y (m) が等しいと考えて、表や式、グラフを用いればよい。

【振り返り】

*評価問題に取り組ませる(写真⑧)。

*問題を解決するポイントとその理由について振り返りに記述させる(写真⑨)。

学習活動のようす



①動きを観察する



②結果を予想する



③個人で考える



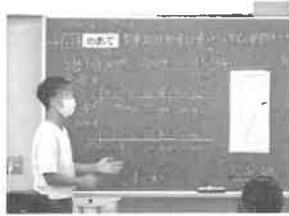
④ペアで考える



⑤グループで考える



⑥考えを比較する



⑦全体で共有する



⑧評価問題に取り組む

本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は「関数 $y=ax^2$ を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている」である。このことを評価するために、関数 $y=ax^2$ で捉えた問題を解決した後に、解決の過程を振り返る場面を設定した。

問題は「電車が自動車に追いつくのにかかる時間を求めること」である。生徒は「電車が出発してから x 秒間に進む距離を y m とすること」で、電車についての2つの数量の間の関係を関数 $y=ax^2$ で捉え、表や式、グラフを用いて解決を図る。授業の終末に解決の過程を振り返る場面を設定し、自分や友達の解決方法を「関数 $y=ax^2$ を活用する上で気をつけること」「表や式、グラフを相互に関連付けてそれらを用いること」「今後同じような問題について考えるとき大切なこと」などの視点で考察させ、振り返りに記述するよう求めた。



⑨振り返りを記述する

以下に示すのは、評価と評価の視点及び具体的な生徒の記述である。

評価	評価の視点	具体的な生徒の記述
十分満足できる状況 (A)	関数 $y=ax^2$ を活用した問題解決の過程を振り返って、評価しようとしているか、今後の改善につなげようとしているかどうか見取る。	(1) 振り返り ☆記録日☆ 式の連立方程式は、関数分限を使っても解けると いう事が分かった。これ、関数の3点セットで、式、表 グラフの3つで、どれか一つでも問題ごとに 使い分けよう。 A
おおむね満足できる状況 (B)	関数 $y=ax^2$ を活用した問題解決の過程を振り返って、評価しようとしているかどうかを見取る。	(2) 振り返り ☆記録日☆ 表で表すのとグラフで表すのとでは グラフの方が解くのが早いので、グラフは 点が多い方がいい。 B

具体的な生徒の記述(1)については、式を用いた問題解決の過程を振り返って、方程式の解き方を比較し、今後の改善につなげようとしているので、十分満足できる状況 (A) と判断した。具体的な生徒の記述(2)については、「電車が追いつく」ということを振り返って、表や式、グラフで比較し評価しようとしているので、おおむね満足できる状況 (B) と判断した。こうした振り返りを繰り返すことで、関数 $y=ax^2$ のよさを実感して粘り強く考え、主体的に学習に取り組む態度の育成につながると考えられる。

◎ 実践の効果

「2. この単元学習で伸ばしたい力」について、単元学習後の自己評価（顔マークを用いた4段階選択式）の結果は、評価が高い方から、30%、45%、16%、2%であった。「か」「ふ」「や」「み」それぞれの力の中で最も多くの生徒が選択した力（か④、ふ①、や⑥、み②）に限ると、自己評価の結果は次のとおりであった。紙面の都合上、最も高い評価を選択した生徒の数とその割合のみ示す。

か④：協力する力（28名 41%） ふ①：行動を振り返り改善につなげる力（20名 22%）
や⑥：最後までねばり強くやり通す力（34名 42%） み②：自分の目標を設定する力（12名 17%）

「4. 2以外にも伸びたと思う力」について、生徒が選択した力は次のとおりであった。

か④：協力する力（58名 38%） ふ③：情報・助言を正しく理解し自分を見つめる力（39名 26%）
か②：進んで考えや気持ちを伝え合う力（37名 25%） み②：自分の目標を設定する力（33名 22%）

本単元の学習指導においては、互いに自分の考えを表現し伝え合う活動と、問題解決の過程を振り返る活動の充実を図ってきた。「未来シート」の活用と相まって、生徒は「協力する力が伸びた」と強く感じていると判断することができる。参考として生徒の記述を紹介する。

今回は前と比べて、いろんな人と話し合ったり、教え合ったりして、仲間や
関わる機会が多くなり、自分的にも、たくさん、自分から積極的にみんなと協力
できたかなと思います。次は、自分の得意な所を活かして、計画的に、
復習したいなって思っています。

実践5 理科

単元名：力学的エネルギー（第3学年）

○ 教科の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

○ 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1) 力学的エネルギーに関する観察、実験を行い、物体のもつ力学的エネルギーは物体がほかの物体になしうること、運動エネルギーと位置エネルギーは相互に移り変わることを、また、力学的エネルギーの総量が保存することを見いだして理解するとともに、それらの観察、実験の技能を身に付ける。	(2) 力学的エネルギーについて、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現する。また、探究の過程を振り返る。	(3) 力学的エネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究する態度、自然を多面的に見ようとする態度を養う。また、力学的エネルギーが保存しない場合など、事物・現象について新たな気づきを見いだそうとする態度を養う。

○ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
力学的エネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、仕事とエネルギー、力学的エネルギーの保存について基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	力学的エネルギーについて、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究している。	力学的エネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。また、力学的エネルギーが保存しない場合など、事物・現象について新たな気づきを見いだそうとしている。

◎ キャリア教育の視点を踏まえた授業改善

中学校理科において「学びに向かう力」を育成するに当たっては、生徒の学習意欲を喚起し、生徒が自然の事物・現象に進んで関わり、主体的に探究しようとする態度を育てることが求められている。また、「学びに向かう力」の育成と他者や社会との関わりの中で、自らの役割を果たす過程を通じたキャリア発達に関わりが大きい。

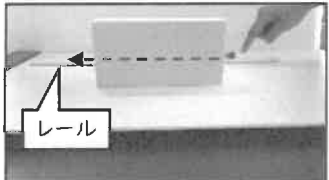
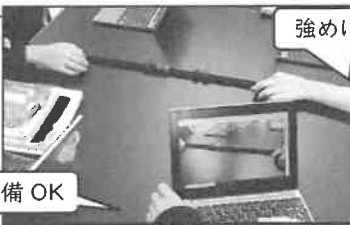
そこで本単元では、単元後半にICTを活用したパフォーマンス課題に取り組む場面を設定した。パフォーマンス課題では、2個のビー玉が目隠しブロックの後ろを通過して出てくる際に色が入れ替わっている動画を視聴させ、グループで試行錯誤しながら目隠しブロックで隠されている部分の仕掛け（トリック）を考え再現動画を制作させるなど「かかわる力」に重点を置いた単元計画を行った。また、次頁に示す「単元振り返りシート」には、単元を貫く問いと「未来シート」を盛り込んだ。それを活用することで、単元学習前後の変容を生徒自身で確認し、学習したことを生活や将来と結びつけて考えることができるようにした。また、生徒が「かふやみ力」を選択する際に、「かかわる力」の中から一つを選択させ、各授業における教師視点での「かふやみ力」も示した。

6	【ねらい】ビー玉の衝突の前後で、力学的エネルギーは保存されているといえるのか考え、玉突き事故の仕組みと事故による衝撃を緩和するための工夫について気付く。 □前時の振り返り ○ビー玉の衝突の前後で、力学的エネルギーは保存されているのだろうか。 □単元のまとめ ○玉突き事故で、車が衝突し続けないのはなぜだろう。 ○この単元で身に付けた力を今後に生かしたい。	態		単元を貫く問いを通して、生活や将来へつなげようとしている。 ふり返る力
定期テスト		知 思	○ ○	
単元振り返りシート		思 態	○ ○	

○ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の進め方

(1) 授業プランシート（第5時）

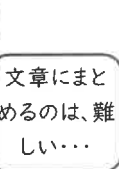
本単元の第5時において、パフォーマンス課題を設定し、「主体的に学習に取り組む態度」を記録に残す場面を下記のとおり設定した。

1 本時のねらい（第5時） 目隠しブロックの後ろを通ったビー玉が入れ替わる動画を再現する活動を通して、試行錯誤しながら粘り強く課題に挑み、力学的エネルギーの保存則の理解を深める。		（評価方法） 活動中の行動観察、ロイロノートの提出内容の分析
2 パフォーマンス課題 【課題】「2個のビー玉の色が入れ替わったのはどのようなトリックだろう？目隠しブロックで隠れている部分のトリックを考えて、再現動画を制作しよう！」 【動画】 ① 2個のビー玉を指ではじく  目隠しブロック ビー玉 (緑・青) ② ビー玉がレールの上を進む  レール ③ 色の順番が入れ替わって出る  ビー玉 (青・緑)		
3 評価規準 ビー玉が入れ替わる仕組みについて主体的に考え、試行錯誤しながら再現しようとしている。		
4 本時の展開 ①導入（5分） ふり返る力 ・前時の振り返りを行う。 ・単元振り返りシートに「ねらい」を記入する。 ・ねらい：「ビー玉が入れ替わる動画を再現する」 ②展開1（5分） みとおす力 ・動画を視聴し、気付いたことを共有する。 ・動画を再現するにはどうしたらいいかイメージする。 ③展開2（20分） かかわる力 やりぬく力 ・グループごとに道具を準備する。 ・グループメンバーと話し合いながら、どのようにしたら再現できるか試行錯誤しながら撮影する。 ※ヒント：指ではじくビー玉と目隠しから出てくるビー玉の数の関係について考えてみよう。  動画視聴  グループでトリックを検討  再現動画を撮影		

・撮影した動画を基に、目隠しブロックで隠れている部分のトリック（仕掛け）についてまとめる。



前の時間に習った力学的エネルギーで説明できるかな？



文章にまとめるのは、難しい…



みんな入力できた？ 提出してもいいかな？

考察を考える

・まとめた内容をロイロノートで提出する。

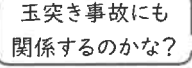
④まとめ（10分） **かかわる力** 

・グループの撮影した動画、考えをクラス全体で共有する。

・まとめ：「力学的エネルギーは保存されるため、衝突した後の物体の運動も保存される」

⑤振り返り（10分） **ふり返る力** 

・単元振り返りシートを記入する。



玉突き事故にも関係するのかな？



グループで協力して取り組めたから…

ロイロノートにまとめて提出

振り返り

(2) 第5時の評価例

単元後半にICTを活用したパフォーマンス課題に取り組む場面を設定し、グループで試行錯誤しながら課題に取り組む様子、制作物及びまとめを「主体的に学習に取り組む態度」として評価した。

【評価Bの例】

右図に示す生徒dのまとめは、説明が十分ではないがグループで試行錯誤しながら作業に取り組み、再現動画を制作することができたので、「おおむね満足できる」状況（B）とした。

【考察】再現したビー玉の運動の仕組みをキーワードを使って説明しよう

【キーワード】エネルギー

【説明】力学的エネルギーが働いたからビー玉が飛んだ

生徒dのまとめ

【評価Aの例】

生徒eは、グループで試行錯誤しながら様々な方法を試して再現動画を制作しており、これまでに学習した知識を活用し、右図のように根拠に基づいて説明しようとしているので、「十分満足できる」状況（A）とした。

【考察】再現したビー玉の運動の仕組みをキーワードを使って説明しよう

【キーワード】エネルギー

【説明】運動エネルギーを持った2つのビー玉が止まっている4つの手前のビー玉を通して前の2つのビー玉に伝わって動いた

生徒eのまとめ

【評価Cの例】

今回は、評価Cに該当する生徒はいなかったが、再現動画の制作に取り組まない、考察をまとめようとしない場合は、「努力を要する」状況（C）と判断する。

【「努力を要する」状況と評価した生徒に対する指導の手立て】

グループ活動に参加できずにいる場合は声掛けを行い、撮影係など本人が取り組みやすい役割を提案する。また、まとめの段階で手が止まっている場合は、本人の困りを確認して助言を行う。

(3) 単元振り返りシートの評価例

単元を貫く問い「玉突き事故はどのようにして起こるのだろうか？」の単元学習の前後の変容及び学習したことを今後どのように生活や将来に役立てたいかの記述を基に「主体的に学習に取り組む態度」を評価した。下記に示す事例は、単元を貫く問い（学習後）の記述が具体的な内容に変容しており、単元を通じた学びを今後に生かそうとしていると判断し、評価Aとしたものである。

評価	単元を貫く問い（学習前）	単元を貫く問い（学習後）	学習したことを今後どのように役立てたいか
A	ぶつかった勢いがそのまま伝わってしまう。	力学的エネルギー保存の法則により、ぶつかった時のエネルギーが一定に保たれたまま伝わり、その分だけ動く。その動いたのがまた前の車にぶつかって・・・を繰り返すと玉突き事故が起こる。	実験で協力する機会があって、動画を撮る人など役割を自分たちで考える、そして伝え合うことを学びました。考察も自分たちで考えて、文章にまとめるのは難しかったけど、かかわる力を今後も生かしたいです。

◎ 実践の効果

単元で伸ばしたい力として生徒が最も多く選んだ力は、指定した「かかわる力」では「か④ 協力する力」、それ以外は「やりぬく力」の項目が多く、それらの自己評価は90%以上が肯定的(☺☺)だった。これは、協力員が主に「かかわる力」を意識した単元計画及び授業づくりを行うことで、協働的な学びが生徒の粘り強くやり抜く力の育成につながったといえる。また、協力員自身は単元における各授業のつながりと流れを今まで以上に意識して行ったことへの手応えを感じている。更に、教師間の情報共有でお互いの指導改善・指導力向上につながったと感じており、これらは実践の効果と考える。

実践6 音楽

題材名：クラスの思いをのせて歌おう（第3学年）

○ 教科の目標（2）及び（3）

思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。



○ 題材の目標

思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(2) テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。	(3) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、豊かな情操を培う。



○ 題材の評価規準

思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図を持っている。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

◎ キャリア教育の視点を踏まえた授業改善

今回の題材となる「合唱」は、クラス全員での関わり合いが必要になる。多くの中学校では、特別活動の時間等も活用しながら、学校全体取組として合唱コンクールを行っている。そこで、「未来シート」では、「かかわる力」から1つを選択させ、残りは自由選択とした。また、「題材振り返りシート」も合わせて活用し、「クラスの想いをのせて表現し歌うためには？」という問いに対する答えを考える。毎時間の取り組む内容やその時間に必要な視点を明確にすることで、話し合いの場面での視点や振り返りが焦点化され、その中で自己の成長が見えるのではないかと考えた。

○ 指導と評価の計画（8時間）

時	学習内容と本時の発問（□）	学習を支える教師の働きかけ	評価
1	全体の印象をつかむ □曲との出会いを大切にし、私やみんなはどんな曲想を感じ取ったかな？	・旋律、歌詞、テクスチャ、強弱、構成に着目して聞かせる。夏休みの新聞もつかう。	
2,3	正確な音程とリズムを捉える。 □音程とリズムを正確にするには？	・全体の動きの中で、自分のパートの動きに着目させ他のパートとの関わりを意識させる。	
4	曲想と音楽の構造を考えた表現の工夫① □強弱記号を表現するためには？	・強弱記号に着目させ、その意味を考えさせる。	
5	曲想と音楽の構造を考えた表現の工夫② □声部の役割や曲の構成はどんな作りになってどう表現したらいい？	・テクスチャ、構成に着目させ、音楽の構造と表現の関係に気付かせる。	知
6	歌詞の内容を表現するための技能 □言葉を美しく伝えるためにはどうしたらいい？	・発声、言葉の発音と歌詞の内容とを関わらせて表現させる。	思判表
7	音楽の構造と歌詞の内容とを関わらせた表現 □作詞者の思いとは？場面にあった表現とは？	・音楽の構造と歌詞の内容との関わりに着目させ、それぞれの場面をどう表現できるか生徒の考えを引き出す。	思判表 技
8	全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う □クラスの想いをのせて表現し歌うためには？	・これまでの学習を踏まえ、どんな創意工夫ができるか引き出す。	思判表 態

○ 題材振り返りシート

題材名「 」 曲名「 」 () 年 () 組 () 番 氏名 ()				
題材のゴール：(クラスの思いをのせて表現し歌うためには？)				
Q1. 合唱は好きですか？右の番号を選んで⇒() ①とても好き ②まあまあ好き ③あまり好きじゃない ④好きじゃない				
Q2. Q1の理由は何ですか？ ⇒				
Q3. 合唱で大切なことは何だと思いますか？ ⇒				
Q4. 「クラスの思いをのせて表現し歌うには」何が必要だと思いますか？⇒				
本時の問い (MQ) に対する気持ちや考えを3つ選び○をつけ、その3つを選んだ理由を右に記入しましょう				
月 日	曲との出会いを大切に、どんな曲想を感じ取ったかな？			⇐曲想にふさわしい言葉を3つ選び、その理由を記入しよう
	きれい	暗い	楽しい	
	壮大な感じ	柔らかい	生き生きしてる	
	感動的		明るい	
	優しさ		調和	
	悲しい	温かい	重々しい	
	鮮やか	軽やか	厳しさ	
月 日	音程とリズムを正確にするには？			⇐今日の授業で大事だと感じたことを3つ選び、その理由を記入しよう
	周りに合わせる	楽譜をよく見る	何回も練習する	
	拍を意識する		伴奏をよく聞く	
	音の上下を覚える	集中力	みんなで一緒に歌う	
月 日	強弱記号を表現するには？			⇐今日の授業で大事だと感じたことを3つ選び、その理由を記入しよう
	楽譜を見ながら歌う	声の表情を変える	歌詞の意味と繋げる	
	強弱の意味を考える		何回も練習して覚える	
	みんなで合わせる	曲の場面を考える	伴奏をよく聞く	

○ 本時の計画

1 本時のねらい ○全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う	
2 本時の評価規準 (評価場面と方法) よりよい表現をするために、その方法を考え、実際に歌って確認する。また、ワークシートに記載しようとしている。	
3 本時の展開 ①導 入・・・ 前時までの振り返り。 学習を振り返り、確認しながら歌う。 ②めあて・・・クラスの思いをのせて表現し歌うには？ ③展 開・・・ワークシートを使い、クラス全体で表現の工夫について考える。 パートリーダーを中心に改善点を話し合いながらよりよい表現を目指す。 ④まとめ・・・めあてに対するまとめを行う。 →場面ごとの表現や歌詞の内容にふさわしい発音や発声などを考えるだけでなく、他者と合わせることで生まれる統一感も意識して歌う。 ⑤振り返り・・・振り返りシートの視点で、本日の授業で考えたことを記載させる。 →これまでの学習を振り返り、よりよい表現をするために必要なことは何だろう。	 

授業中の観察や題材振り返りシートとワークシートの記述から、よりよい表現を目指そうとしているかについて評価する。

5	ハーモニー	各パートの役割	強弱のイメージ	今日は喉がなぜか大きな声を出そうとするとつかかかる感じがして声量が出なかった。どうやって喉の調子を整えるのかなと思った。ハーモニーは録音して聞くと、とてもズレているし、あっていない感じがした。特に女子の声量が追い付いていないと感じた。
6	各パートの役割	母音と子音	発声	子音と母音を意識すると、強弱や歌詞のまとまりなどに意識が回らなくなってできないから、子音と母音の出し方を頭に叩き込んで覚えて、その発音を使うのかも頭に入れておくことができるかなと思った。
7	言葉の表現	曲の背景	イメージの統一	歌詞の一つ一つには意味があるし、それをどこまで汲み取れるかが表現には大事だと思った。歌詞の意味だけ分かって、なぜその理由だったのか、この曲が作られた背景などを読み取っていくことで、更にどう伝えたいかを考えながら歌えると思った。イメージが違いすぎると表現に違いが出てくる。
8	強弱の表現	場面ごとの表現	正確なリズムや音程	最初に発声をしないと歌っている時にのどにつかえて声が裏返ったりするので、当日も発声練習をする。どれか一つを意識し過ぎて他の部分を間違えると意味がないので当たり前に歌えるくらい練習する。外から聴くとどこが直した方が良いのか、誰が浮いているのかがわかったので、そこを一つ一つ直したい。男声パートとソプラノ、アルトで声量が違うので周りを聴きながら声が小さくならないように気を付ける。

◎ 実践の効果

「未来シート」について

指定した「かかわる力」については、ほとんどの生徒が「協力する力」を選択していた。授業後には「進んで考えや気持ちを伝え合う力」も身に付いたと感じている生徒が多く、自己評価も高い。その理由として「みんなで話し合い協力したことで、進んで気持ちを伝え合うことができた。そして目標を設定してその目標を次につなげることができたから」などの記述があった。

「振り返りシート」について

題材終了後に生徒へアンケートを行った。「『考える力』や『言葉で表現する力』は、『振り返りシート』を用いた学習をすることで以前より高まりましたか？」の質問には、97%の生徒が肯定的な回答をしている。また、「自分で表現の工夫をしようとする意識は、『振り返りシート』を用いた学習をすることで以前より高まりましたか？」の質問への回答では、95%の生徒が肯定的な回答をしている。さらに振り返りシートの記述からは、表現を工夫するために前時の学習や振り返りシートの選択肢を手がかりとしている様子がうかがえた。

協力員からは、振り返りシートの利点として「見通しが持てる」、「現時点でどれくらい積み上げておかないといけないのか子供たち自身が考えることができる」、「振り返る材料」があがった。題材終了後の意見交換会では、「生徒が文章を書く欄は、もっと大きく行数ももう少し少ない方が良いかもしれない。」という改善点も挙がったが、「三つの言葉に丸をつけて選択する部分は、意識しないといけなかったことや目当てを達成するためのヒントとなり、その1時間の子供たちの助けにもなったと思う。」という肯定的な意見をいただいた。

以上のことから、今回の取組では「未来シート」と「振り返りシート」が生徒にとって有効だったと考えられる。

事後アンケートの生徒の記述より

「未来シート」について

- ・「これまでは『かふやみ』のように具体的な目標の例がなく自分が何を目指せば良いのか分からず、あやふやだった。だけど、これを用いたことでやるべき事が明確になり、それが良い結果を生んだのでとてもよかった。」
- ・「『～をがんばる』のような目標ではなく、伸ばしたい力を書いて目標にするので、よりやらなければいけないことを意識して学習に取り組めた。」

題材振り返りシートについて

- ・「自分が今回の授業でどんな活動をしたのか毎時間振り返ることができたので、1週間あいてもあんまり忘れなかった。」
- ・「前回までの自分のできた事、できなかった事、次やろうと思った事などを振り返れて、自分が今回の授業でどうするべきかがすぐにわかってスムーズに授業を受けた。」
- ・「振り返りシートを使うことで、前回何ができたのか、何ができなくて次回どう生かしたいのかを読み自分の目標を確認することができた。授業終わりに書くことで授業中の自分を見返せた。」

実践7 美術

題材名：地域の魅力を伝えよう

～多くの人に魅力を伝えるパッケージデザインを考える～
(第2学年)

教科（美術）の目標（3）学びに向かう力，人間性等
美術の創造的活動の喜びを味わい，美術を愛好する心情を育み，感性豊かにし，心豊かな生活を創造していく態度を養い，豊かな情操を培う。
単元の目標（3）学びに向かう力，人間性等
創造活動の喜びを味わい，日常の中に相手や目的に合わせたデザインを取り入れることで，自分や周りの人の気持ちや生活を明るく豊かにしようとする。
単元の評価規準 主体的に学習に取り組む態度
①美術の創造活動の喜びを味わい，主体的に主題を生み出し，形や色彩などが感情にもたらす効果や，機能と美しさとの調和などを総合的に考え構想を練り，意図に応じて創意工夫し見通しをもって表す表現の学習活動に取り組もうとしている。【態表】
②美術の創造活動の喜びを味わい，包み込む包装紙の調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【態鑑】

○単元におけるキャリア教育の視点（4つの力+具体的な姿）

かかわる力	商品の魅力を伝えるために，商品にかかわる人たちの気持ちなどからイメージを広げて，主題を生み出し，わかりやすさや美しさの調和など，表現の構想を練る姿。
ふり返る力	美術を通して社会とつながり，これからの社会をよりよく変えていこうとする姿。
やりぬく力	地域の魅力を理解しパッケージデザインを通して地域に愛着を持って粘り強くかかわり貢献しようとする姿。
みとおす力	社会の中で自ら果たすべき役割を考え，主体的に判断し行動する姿。 課題に対し，「自分ごと」として創意工夫し見通しをもって創造的に表す姿。

◎ キャリア教育の視点を踏まえた授業改善

地域の特産品である「城まんじゅう」のよさをより魅力的に伝える包装紙（パッケージ）制作を通して，①商品のイメージが多くの人に伝わる魅力的な装飾を考えデザインする力を養うために，かかわる力の視点で人間関係形成・社会参画を育むキャリア教育の実践を行う。②ふり返る力の視点で学習前後の「振り返り」で社会をよりよく変えていこうとする意識を高め，そのための造形的な改善点は何かをPDCAサイクルの視点で評価し資質・能力の育成を目指す。③やりぬく視点で生活を豊かにする美術の働きを実感し，地域のよさや課題を美術で解決しようとする態度の育成。④みとおす力の視点で「生活の中の造形や美術の働き」を意識して，「ものの見方」を広げ「自分なりの答え」をつくる。

○ 指導と評価の計画（6時間）

時間	学習活動	学習内容	教師の手立て	評価方法
1	鑑賞	「城まんじゅう」の店主を講師に迎え商品への想いを理解する。 - パッケージ作品から造形的な視点を確認し見通しを持つ。 - グループや講師との対話活動から作品の	店側の商品開発の思いや考えを感じ取らせ，地域とつながりを持ち，パッケージデザイン作成の意欲を持たせる。 造形的なよさや美しさ，表現の工夫の面白さを捉えさせる	○知・態鑑 未来シート 【かかわる力】

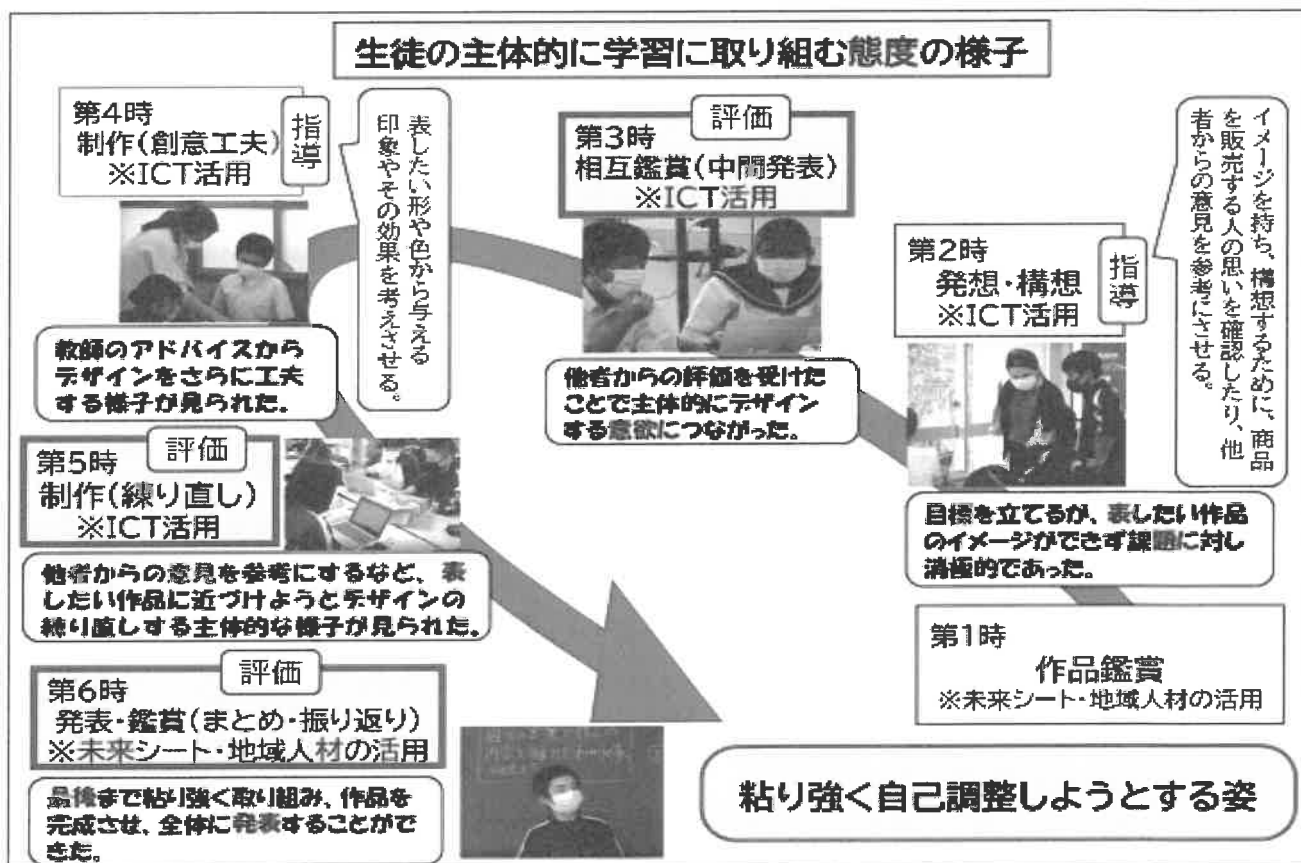


		意図や表現の工夫に気付き、そのよさを味わう。 	パッケージ作品を鑑賞する際には、作品から感じたり考えたりした根拠についても考えさせる。 学びを振り返り、単元シートに記入し、発表させる。	【ふり返る力】
2	発想・構想	・アイディアスケッチを考える。収集した情報をプレゼン資料としてまとめる。   ・用途や機能と美しさの調和を考えた表現の構想を練る。 	商品を販売する人や買う人の思いを基にアイディアスケッチさせ、イメージを明確化させる。 形の繰り返しや大きさの変化、色のもたらす感情、書体を持つ印象等を資料を基に考えさせる。 【到達していない生徒への手立て】 イメージが持てない場合は商品を販売する人の思いを確認させたり、他者からの意見を参考にさせるなどして構想しやすくする。	○発・態表 アイディア スケッチ 企画書 【みとおす力】
3	中間発表	・アイディアスケッチを基にグループで話し合い、表したいデザインを考え、追求していく。  	対話活動から、自分の気付かなかったよさや表現の意図、創造的な工夫などを発見させる。 形や色彩の効果を生かして、構成や装飾を考えさせる。 生徒の発表から、形や色彩イメージ等〔共通事項〕といった造形的な視点として押さえ、ねらいにつなげる。	◎知・思・態鑑 企画書 未来シート I C T (PW) 【かかわる力】
4	制作	・アイディアスケッチしたデザインをタブレットに取り組み、連続模様にしていく。 	形や色が与える印象について、その効果を上手く活用して図案化を図らせながら編集させる。 	○技・発・態表 アイディア スケッチ 企画書 I C T (PW) 【やりぬく力】
5	制作	・イメージに合う色彩や文字などの装飾を検討し、プレゼンの準備を進める。 	情報伝達の工夫に気付き、伝えたい情報を、いかに伝えるのか、デザインを練り直させながら、編集させる。	◎技・発・態表 アイディア スケッチ I C T (PW) 【やりぬく力】

6	鑑賞・発表	- グループから、推薦するデザインを1点選び、全体で発表する。 「城まんじゅう」の店主をお迎えし、生徒のデザインした作品に対し講評をいただく。 	特に発想や構想がよく練られている作品を大型テレビで見せ、作者の思いがどのような形や色彩で表現しているかを紹介し、よい点に気付かせる。 自らの学びを調整したり、新たな問いを設定したりするなど、振り返りを具体的に行う。	◎知・鑑・態鑑 作品 未来シート 企画書 【かかわる力】 【ふり返る力】
---	-------	--	---	---

○ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の進め方

本題材において、「地域を豊かにする美術の働きを実感し、自らの役割を意識して主体的に計画・行動できる生徒」を目指す生徒像とし、美術の授業における表現活動では発想や構想を練るためにアイディアスケッチを熱心にくり返し描いたり、創造的に表す技能を働かせるために ICT タブレットを活用して完成作品のイメージを図案化したりしていく中に、能動的な姿が現れる。また、鑑賞活動では、主体的に作品に向き合ったり、他者と批評し合ったり、考えたりして、見方や感じ方を深めようとしていく姿を見ることができ。そこで本研究における「主体的に学習に取り組む態度」は、一連の学習過程を通して「知識・技能」を使ってどのように取り組み、その習得したことを活用して、思考・判断・表現の場において創造的に働かせ、身に付けていったのかを評価する。つまり、主体的に取り組む態度の粘り強く取り組む様子や、自らの学習を調整しようとする様子を評価する場合に、机間指導等の際のアドバイスや支援によって変容する生徒の様子や姿を捉えながら評価を行い、さらにワークシートの記述や未来シート、アイディアスケッチ、作品、授業中の発言などからも評価資料とする。



評 価	主体的に学習に取り組む態度
「おおむね満足できる状況 (B)」	主体的に伝えるために必要な工夫を感じ取り、自身の作品をよりよくしようとパッケージを練り直している。
■ C への手立て	イメージが持てない場合は商品を販売する人の思いを確認させたり、他者からの意見を参考にさせる。

○評価の実際

キャリア教育の視点を踏まえた本実践の授業改善による効果について、生徒aの企画書、アイディアスケッチ、作品、未来シートの記入内容と研究協力員の感想等を基に考察する。

生徒aの 変容	第3時	企画書	パッケージで伝えたいこと <u>沖縄の文化を伝えること</u> ターゲット <u>小学生・中学生・大学生・20～30代・40～50代・60代</u> メインカラー <u>青・白・黄</u> 作品の完成度 <u>よくない</u> 1 2 3 4 (5) →よい 発表する内容をまとめよう ・沖縄の文化を伝えるためにハイビスカスをたくさん描いて、 ・ちょっと高級感を演出するために文字を黄色にしてみんなに知ってもらいたい。 ・そして背景をランポルにしました。
	第5時	アイ スデ ケイ ツア チ	他者（友人）からの評価 ・沖縄のデザインが周りにあって「ザ◇沖縄」って感じていいとおもった。（dさん） ・大人の人でも買いそうなデザインなのでいい。（cさん）
生徒bの 感想			・商品を作る立場として、パッケージを作ることができて、どうしたらたくさんの人に買ってもらえるか？どうしたら美味しそうに見えるかを考え、どの年齢層に向けて売るかを考えて工夫して作ることができました。初めてパッケージデザインをして、地域の人の努力や商品の魅力を伝えようとする気持ちを感じました。一つ一つに工夫されているパッケージがあって、ただの紙かもしれないけど、そこにはいろいろ考えられたデザインがあるんだなと思いました。今後社会に出た時に一つ一つのものを見る気持ちや何かを作る時の工夫の仕方や考え方が生かされると思いました。

◎ 実践の効果

「この単元学習で伸ばしたい『かふやみ力』」について、生徒の単元学習前の選択結果は「か」31%「ふ」14%、「や」32%、「み」23%であった。単元終了後の「（学習前に選択した）以外にも伸びたと思う力」については、か③：人や地域を大切に思う気持ちや感謝の心（29%）、ふ④：自分の良いところを見つめる力（12%）、や④：発想（想像）する力（38%）、み②：自分の目標を設定する力（21%）であった。この結果から、店主の話聞く機会など他者と関わる場を設けたことで商品を魅力的に伝え、作品制作に向かう意欲が持てた。このことは、生徒の創作目標が設定し易くなったと捉える。学習前後の「振り返り」を未来シートの活用により、自分のよさを見つけ、それを表現に生かすことができた捉える。また、ICTを活かし発想（想像）を広げ、さらに創意工夫して表現となる効果があったと捉える。

具体例として、生徒aの「企画書」「ワークシート」を取り上げる。第3時の企画書より店主の講話から主題を設定し、デザインの見方について広がる様子が読み取れた。発想、構想を練るために第5時に商品を販売する人や買う人の思いを基にパッケージのイメージを明確化させ、作品にしていって過程を通して、粘り強く取り組む様子が見られた。さらに、第6時の単元終了後の「未来シート」の記述からも課題に対し、主体的に学習に取り組んだ様子を見ることができた。

《生徒aの未来シート記述》

今回は、最初から目標を立て、そのために計画を立ててその計画を実行した。どんなキャラを使うか、想像して最後まで粘り強くして作品を完成させられたからよかった。

また、研究協力員からは、地域とのつながりを意識した題材設定を行い、ICT活用を取り入れ、振り返りに「未来シート」を活用したことで、造形的な視点で「ものの見方」を広げたり、創意工夫しながら作品を練り直したりして、主体的に自分なりの答えを見つける様子が見られたことは良かったとのコメントがあった。

以上により、キャリア教育の視点を踏まえた授業改善による本実践は、「学びに向かう力」の育成に有効だと感じる。最後に題材終了後、生徒の完成作品は商品販売に際し、商品パッケージとして使用していただく予定である（期間限定）。商品購入する客からのパッケージに関する感想をもらい、生徒に伝えていくことで自己肯定感の高まりや学習意欲の向上につながることも期待したい。

実践8 保健体育

単元名：球技 ゴール型 バasketボール（第1学年）

教科の目標（3）学びに向かう力，人間性等	
生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し，明るく豊かな生活を営む態度を養う。	
単元の目標（3）学びに向かう力，人間性等	単元の評価規準（主体的に学習に取り組む態度）
（球技に積極的に取り組むとともに，）フェアなプレイを守ろうとすること，作戦などについての話し合いに参加しようとする，（一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする，仲間の学習を援助しようとするなどや，健康・安全に気を配ること）ができるようにする。	①作戦などについての話し合いに参加しようとしている。【参画】 ②マナーを守ったり相手や仲間の健闘を認めたりして，フェアなプレイを守ろうとしている。【公正】

※他の単元で指導し、評価する部分について、()で示している。

○ 指導と評価の計画（全12時間）

※参画シート「参シ」、フェアプレイシート「公シ」、知識技能シート「知シ」と表示。

時間	学習内容・活動		評価機会・方法		
			知・技	思	態
1	オリエンテーション ルールと特性、ハンドリング 単元の見通しと授業の流れの確認	フェアプレイとは 未来シート			
2	ボール操作				
3	ドリブル、シュート、パス	話し合いへの参加の仕方		○ 参シ	
4	技術の名称やポイントを確認	フェアプレイの意義と価値 動きの名称やポイントをシートに追記	○ 知シ		
5	数的優位な状況の動き方 ハーフコートの2対1、3対2	動きのポイントや課題を 伝え合う			
6	空間に走り込む動き方 ハーフコートの2対2、3対3 (パス&ラン)(ドリブル有/無)				
7		作戦タイム	○ 観察		
8	3ON3	良かった点と課題点 攻防の作戦	○ 観察		
9	ルール確認 話し合いへの参加の 仕方の振り返り				① 観察 参シ
10	リーグ戦	グッドフェアプレイを見つけよう		○ 公シ	
11	男女混合 男女別	フェア プレイ を守ろう			② 観察 公シ
12		単元の振り返り 未来シート			総括的評価

◎ キャリア教育の視点を踏まえた授業改善

「未来シート」を単元始めと単元終わりに活用した。教師側の願い「かかわる力を身に付けさせたい」を基に、身に付けたい力として「かかわる力」の中から必ず1つは選択するよう指導し、教師と生徒が同じゴール「かかわる力の育成」を目指すこととした。学習活動として、行動の仕方（具体的知識）となぜそうすることが大切なのか（汎用的知識）を学習し、それを踏まえて、話し合いへの参加の仕方や試合等における行動の仕方を考え、行動しようとする中で、「かかわる力」が育成されていくと考える。さらに「単元計画や評価の計画」を生徒と共有することで、生徒の「みとおす力」も育成されることを期待する。

○ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の進め方

保健体育科の体育分野においては「学びに向かう力、人間性等」について、愛好的態度、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全の中から各領域で取り上げることが効果的な指導内容を重点化して示している。本単元ではその中から「参画」と「公正」を取り上げて指導を行う。これらの指導においては、行動の仕方の例などの具体的知識と、そうすることがなぜ大切かといった意義などの汎用的知識を関連させて指導することが、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を図る上でも大切になる。本実践においても、具体的知識及び汎用的知識を関連させて指導する。単元を通して生徒が自分の思いや考えを整理したり、学びを振り返ることのできる参画シートとフェアプレイシートを作成し活用する。また、知識の理解に基づき、良い行動を判断し、理由とともに表現することができたかについては思考・判断・表現で評価し、思考・判断したことを行動しようとしているかを「主体的に学習に取り組む態度」の評価とする。「主体的に学習に取り組む態度」の評価は主として観察で行うが、思いや考えは行動として見取れない部分もあるため、参画シートとフェアプレイシートの記述も評価材料とする。

話し合いへの参加の仕方を学ぼう		参画シート
3時間目に記入	①ペアやグループで話し合いをするとき、あなたが心掛けていることがありますか（それはどんなことですか）	
3時間目に記入	②話し合いを効果的にするために、参加者はどうしたいかと思いませんか。 ④話し合いへの参加の仕方を書きましょう。 ⑤仲間の意見や考えを（ ） ⑥自分の意見や考えを（ ） ⑦これまでの体育の授業での話し合い活動への参加の仕方について自己評価をしてみよう ⑧なぜこのように評価しましたか	③みんなが意見や考えを伝え合うことは、どのような良い点があると思いますか。 ⑨多くの課題や（ ）が出る ⑩自分の考えと（ ）考えや（ ）考えに気付くことができる ⑪お互いの考えを知ることができ、お互いを（ ）することにつながる ⑫今後はどのように参加したいですか、なぜそう考えましたか。（添削）
学習後9時間目に記入	⑨3時間目の「話し合いへの参加の仕方」を学習したあと、あなたはどのように話し合いに参加しましたか。（添削）	⑬話し合いへの参加の仕方を学習した後の、話し合いへの参加の仕方について自己評価をしてみよう ⑭今後はどのように参加していきたいですか

『技能を高め、フェアプレイでバスケットボールを楽しもう』		フェアプレイシート
学習前1時間目に記入	①フェアプレイとは	②なぜこのように評価しましたか
学習中4時間目に記入	③これまでの体育の授業での、フェアプレイへの自分の取り組みについて自己評価をしてみよう	④なぜこのように評価しましたか
学習中10時間目に記入	⑤フェアプレイとは ⑥授業中に言にしたグッドフェアプレイを書きましょう（添削） ○誰が（誰に）→ ○どういった場面で→ ○どういう行動をしたのか→	⑦それがグッドフェアプレイだと考えた理由を書きましょう（添削）
学習後11時間目に記入	⑧バスケットボールの授業を通して、フェアプレイへの自分の取り組みについて自己評価をしてみよう ⑨今後心掛けたこと（添削）	⑩なぜこのように評価しましたか（添削） （自分がおこなったフェアプレイを具体的に書きましょう） ○どういった場面で→ ○どういう行動をしたのか→

主体的に学習に取り組む態度①（参画）に関する指導と評価の充実を図るための学習場面

時	3 時間目	4 時間目～12 時間目	9 時間目
学習活動	これまでの参加の仕方を自己評価する。 話合いの仕方を学び、その意義を踏まえて今後どのように話合いに参加するのかを考える。 →参画シートに記入する。（思・判・表）	段階的な話合い活動を行う。 ☞ポイントや課題をペアで伝え合う。 ☞2対2や3対3の場面での動き方や作戦について小集団で話合う。 ☞5対5の場面での動き方や作戦についてチームで話合う。  	授業での話合いへの参加の仕方を振り返り、取り組み状況の記入と自己評価をし、今後どのように参加したいのかを考える。 →参画シートに記入する。（態度） 

教師の指導工夫

- ※参加の仕方を調整するよう、声掛けを行った。
- ※参加の仕方を掲示し、いつでも確認できるようにした。
- ※話合う内容を明確にし、皆が意見を出そうことができるようにした。

主体的に学習に取り組む態度①（参画）に関する実現状況と判断の目安と想定される様相の具体例

実現状況	判断の目安	具体的な姿
十分満足できる A	話合いに参加することの意義の理解に基づき、単元を通して話し合いに常に積極的に参加しようとする姿が見られる。	話合いに積極的に参加し、話を聞くだけでなく自分の考えを述べようとする姿勢が単元を通して安定して見られる。
概ね満足できる B	話合いに参加することの意義の理解に基づき、自分の考えを述べたり、相手の話を聞いたりしている。	話合いにおいて、話を聞くだけでなく自分の考えを述べようとする姿勢が見られる。
努力を要する C	話合いに参加する理解や意欲が不十分である。	手立てとして、話合いへの参加の仕方を再確認する。話合い場面で個別に問いかけたり、発言できる場面を作るようメンバーに声掛けをする。

参画シートの生徒の記述より

3 時間目の「話合い活動への参加の仕方」を学習した後、あなたはどのように話合いに参加しましたか。

相手が言った意見に対して、反応したり、質問をして、頭の中でその状況をイメージしながら参加できた。目の前で試合をしている様子を参考にして、作戦や考えを出せた。

主体的に学習に取り組む態度②（公正）に関する指導と評価の充実を図るための学習場面

	1 時間目	4 時間目	10 時間目	11 時間目
学習活動	現在持っている知識の確認及びこれまでの行動の自己評価→フェアプレイシートに記入する。	フェアプレイの意義と価値を学ぶ。 →フェアプレイシートに記入する。 	グッドフェアプレイを見付け、グッドフェアプレイと考えた理由を記述する。 →フェアプレイシートに記入する。 （思・判・表）	フェアプレイを守る行動について振り返る。 自分の取り組み状況の記入及び自己評価を行う。また、今後どのような行動をとっていきたいか考える。 →フェアプレイシートに記入する。（態度）

教師の指導工夫

※単元を通して、グッドフェアプレイを見付けるよう呼びかけることで、フェアプレイについて考え、フェアプレイを守ろうとすることを意識づけた。

※4～12 時間目の試合等の活動において、フェアプレイを守る行動を意識するよう声掛けし、良い行動を教師が積極的に賞賛した。

※グッドフェアプレイを授業の終わりに発表させ、みんなで共有することで全体への浸透を図った。

主体的に学習に取り組む態度②（公正）に関する実現状況と判断の目安と想定される様相の具体例

実現状況	判断の目安	具体的な姿
十分満足 できる A	フェアプレイを守る意義を理解し、マナーを守り、他人の健闘を讃えたり、フェアに競うことに常に取り組もうとする。	勝敗の結果に関わらず、フェアプレイを守ることの意義と具体的行動の理解に基づき、全力で取り組む姿勢や相手や仲間の健闘を認める発言、尊重する態度が単元を通して安定して見られる。
概ね満足 できる B	フェアプレイを守る意義を理解し、マナーを守り、他人の健闘を讃えたり、フェアに競うことに取り組もうとする。	フェアプレイを守ることの意義と具体的行動の理解に基づき、全力で取り組む姿勢や相手や仲間の健闘を認める発言、尊重する態度が見られる。
努力を 要する C	フェアプレイの意義や取るべき行動への理解が不十分で、マナーを守り、他人の健闘を讃えたり、フェアに競うことに取り組もうとする行動が見られない。	手立てとして、フェアプレイを守ることの意義と具体的行動を再確認する。フェアプレイの具体的行動を提示して選択させ、その行動をとった時の気持ちを考えさせる。

フェアプレイを守ろうとする生徒の様相



◎ 実践の効果

【伸びたと思う力とその理由 「未来シート」生徒の記述より】

（かかわる力）：「ナイス～」や「〇〇～！！」などの声掛けができた。

（かかわる力）：仲間で精いっぱい協力し合えた。

（かかわる力、やりぬく力）：バスケットで伸ばしたい力がいっぱい伸ばせました、自分はシュートが苦手だから、他人と比べてしまうところがあるけど、いっぱい挑戦できたし、チームが勝つために、問題を発見して作戦を立てたりすることもできた。

（ふり返る力、みとおす力）：勝負で自分たちのチームが得点を決めるための、人の配置や作戦を考えることができた。

（やりぬく力、ふり返る力）：相手にいっぱい点数を入れられても、最後まであきらめないでできた、できなかったところや悪かったところを振り返って、改善につなげることができた。

【協力員のアンケートより】

チームで考える場面や話合う場面が増えて、コミュニケーション能力の向上につながった。

明確な見通しを持たせて活動させることで、生徒がスムーズに動いている様子を感じられた。

現段階では教師の指示が必要だが、今後は指示を減らし、生徒主体の活動につなげていきたい。

生徒が思考を整理したり、学びを振り返ることのできる参画シートとフェアプレイシートの活用及び具体的知識と汎用的知識を関連させた指導は、生徒の「かかわる力」や「ふり返る力」を育むことにつながったと考える。また「未来シート」を活用し、教師と生徒がキャリア教育の視点を意識しながら活動したことで、育成したい力を効果的に伸ばすことができたと考える。

実践9 技術・家庭 (技術分野)

題材名：計測・制御のプログラムによって身の回りの
生活を便利にしよう（第2学年）

○ 教科の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。	(2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。	(3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。



○ 題材の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1) 生活や社会で利用されている情報の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み、保守点検の必要性及び、情報の技術と生活や社会、安全性や環境との関わりについて理解しているとともに、安全・適切な製作、実装、点検及び調整などができる技能を身に付ける。	(2) 生活や社会の中から情報の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	(3) より良い生活や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、情報の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。



○ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①計測・制御システムの仕組みを理解している。 ②安全・適切に順次、分岐、反復という情報処理の手順や構造を入力し、プログラムの編集・保存、動作の確認、デバッグ等ができる技能を身に付けている。	①日常生活において計測・制御のプログラムで解決できそうな問題を見いだして課題を設定している。 ②課題の解決策を条件を踏まえて構想している。 ③設計に基づいて情報処理の手順を具体化し、合理的な解決作業について考えている。 ④課題の解決結果や解決過程を評価、改善及び修正する力を身に付けている。	①情報の技術について、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。 ②自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている。 ③他者と協働して粘り強く物事を前に進めようとしている。 ④自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるように改善・修正しようとしている（技術を工夫し創造しようとしている）。

◎ キャリア教育の視点を踏まえた授業改善

本題材では、「主体的に学習に取り組む態度」を、①情報の技術について、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている態度、②自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている態度、③他者と協働して粘り強く物事を前に進めようとしている態度、④自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるような改善・修正しようとしている（技術を工夫し創造しようとしている）態度から評価する。

そこで、システム開発を4名1組のグループで行わせることで「③他者と協働して粘り強く物事を前に進めようとしている態度」の評価では、「かかわる力」の育成につなげたい。また、開発しているシステムの途中段階での発表や完成したシステムの発表を行うことで、「④自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるように改善・修正しようとしている態度（技術を工夫し創造しようとしている態度）」の評価では、「やりぬく力」「ふり返る力」の育成につなげたい。

○ 指導と評価の計画（8時間）

※観点の◎は記録に残す評価

時数	指導要領	学習過程	学習内容	観点別学習状況の評価			評価方法
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	D(3)ア	既存の技術の理解	プログラムって何だろう ・社会におけるプログラムの役割について知る。	・プログラムが社会に果たす役割について理解している。		・情報の技術について、主体的に理解しようとしている。【①】	ワークシート
2 3	D(3)ア	制作	基本プログラムを制作してみよう ・プログラムでメロディを制作する。 ・メロディにライトを連動させるプログラムを制作する。	・安全・適切なプログラムの制作、センサーとアクチュエータを含めた動作確認及びデバッグ等ができる。		・情報の技術について、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。【①】 ・自分なりの新しい考え方や捉え方によって課題の解決に主体的に取り組もうとしている。【②】	プログラム
4	D(3)イ	課題設定	生活に役に立つ計測・制御システムを考えよう ・技術の見方・考え方の視点から課題を設定し、解決策を考える。		・見方・考え方の視点から課題を設定している。 ・課題の解決策を、条件を踏まえて構想している。	・他者と協働して粘り強く物事を前に進めようとしている。【③】	ワークシート
5	D(3)アイ	制作	グループで協力して生活に役に立つ計測・制御システムを開発しよう ・課題を解決するためのプログラムを制作する。	・課題を解決するために、適切なプログラミング言語を用いて、安全・適切に、プログラムの編集・保存、動作確認、デバッグ等ができる。	・設計に基づく合理的な解決作業について考えている。		プログラム
6	D(3)イ	評価改善修正課題設定	開発中の計測・制御システムを紹介しよう ・開発中のシステムを紹介する。 ・他のグループのシステムを参考に新たな改善策及び修正法について考える。		◎見方・考え方の視点から課題を設定している。 ◎課題の解決策を、条件を踏まえて構想している。	・自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるような改善策・修正方法を考えようとしている。【④】	ワークシート
7	D(3)アイ	制作	グループで協力して生活に役に立つ計測・制御システムを開発しよう ・課題を解決するためのプログラムを制作する。	◎課題を解決するために、適切なプログラミング言語を用いて、安全・適切に、プログラムの編集・保存、動作確認、デバッグ等ができる。	・設計に基づく合理的な解決作業について考えている。	・情報の技術について、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。【①】 ・自分なりの新しい考え方や捉え方によって課題の解決に主体的に取り組もうとしている。【②】 ・他者と協働して粘り強く物事を前に進めようとしている。【③】	プログラム
8	D(3)イ	評価問題発見	開発した計測・制御システムを紹介しよう ・開発したのシステムを紹介する。 ・制作したプログラムを評価し、改善策を考える。		◎制作したプログラムを評価し、改善策を考えている。	◎自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるような改善策を考えようとしている。【④】	ワークシート振り返り

○ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の進め方

本題材では、パフォーマンス課題『計測・制御のプログラムによって身の回りの生活を便利にするシステムを開発しよう』においてグループで課題を設定し、プログラムの制作を行っていく。「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、プログラム制作、発表の第2時～第8時の過程で下記の①～④の視点で評価していく。

	評価の視点	評価方法
①	情報の技術について、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている態度	プログラム制作における行動観察、プログラムにより評価。プログラム制作は技能の評価にあたるが、プログラミングの技能を身に付けていることを「技能を身に付けようとしている態度」として評価。
②	自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている態度	制作途中で中間発表会を実施し、新たな課題設定やその解決策の構想を行う段階でワークシートの記述より中間評価。
③	他者と協働して粘り強く物事を前に進めようとしている態度	グループでの課題設定からプログラムの制作における行動観察、ワークシートの記述より評価。
④	自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるような改善・修正しようとしている（技術を工夫し創造しようとしている）態度	最終発表後に、学習したことを社会の中でどのような場面で活用できそうか考えさせる場面をワークシートの記述より評価。

生徒のプログラム制作や振り返りの記述から、生徒の変容をもとに④自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるような改善・修正しようとしている（技術を工夫し創造しようとしている）態度を中心に評価を行っていく。

授業プランシート

題材名 計測・制御のプログラムによって身の回りの生活を便利にするシステムを開発しよう（パフォーマンス課題）（8／8）

1 本時のねらい

〈知識・技能〉 プログラムの制作と動作の確認、デバックができる。 情報処理の手順を具体化する。	〈評価場面・方法〉 〈知識・技能〉 ワークシート評価 プログラムの説明が書かれている。→B プログラムの説明とセンサーや出力についての説明が書かれている。→A 中間発表後、さらにプログラムを改善することができる。→A
〈思考・判断・表現〉 制作したプログラムを評価し、解決方法について考えている。 〈主体的に学習に取り組む態度〉 自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるような解決方法について考えようとしている。	〈思考・判断・表現〉 〈主体的に学習に取り組む態度〉 制作したプログラムを評価し、新たな課題について考えてようとしている。→B 制作したプログラムを評価し、新たな課題や課題に対する解決方法について考えようとしている。→A

2 めあて、まとめ、振り返り

〈まとめ〉 センサーは光、音、スイッチを使い、出力は、光と音を使用した。これらのセンサーを使い、プログラムをすることにより、世の中の多くの機械のシステム化に活用されている。	〈めあて〉 中間報告で出た課題を改善し、開発した計測・制御システムを紹介する。
 正対	
〈振り返り〉 題材を通して、身近なプログラム、センサーや出力する装置について考え、計測・制御のプログラムによって生活を便利にする方法を考えようとしている。	

3 本時の展開

（導入）プログラムの制作と発表を行うことの再確認

（展開）

プログラム制作（20分）

グループ発表（20分）

① プログラムについての説明（1分）

② プログラムの実演（30秒）



相談しながらプログラム制作に取り組んでいる様子

③ 8グループ繰り返す

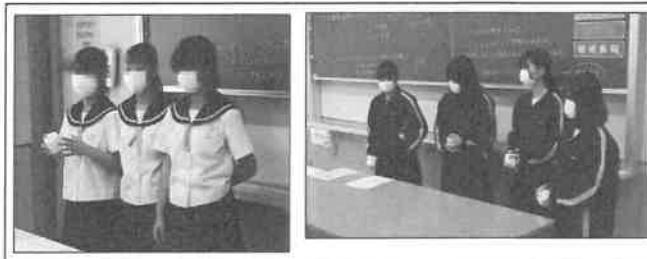
(まとめ) センサーと出力はプログラムによって計測・制御されていること。多くの機械にこれらが使用され、システム化されていること。

(ふりかえり) 世の中の機械の仕組みや、新たな課題などを考えようとする。

ワークシートの記入

(「未来シート」、題材振り返りシート、

発表ワークシート(最終))



プログラムの発表と実演の様子

本題材の主体的に学習に取り組む態度の評価である「④自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるように改善・修正しようとしている(技術を工夫し創造しようとしている)態度」は、プログラムの制作発表を終えた後の振り返りの記述の中から評価を行った。

今回のプログラム制作発表を終えての振り返りから、自分たちグループのプログラムを評価し、新たな課題設定や改善策を考える場面を設定した。

以下に示すのは、評価と評価の視点及び具体的な生徒の記述である。

評価	評価の視点	具体的な生徒の記述例
「おおむね満足できる」状況(B)	制作したプログラムを評価し、新たな課題について考えている。	光センサーは感度で反応しにくかったから改善していきたいと思う
「十分満足できる」状況(A)	制作したプログラムを評価し、新たな課題や課題に対する改善策について考えている。	今ある製品をボタンじゃなくて、音センサーだったら、遠くからでもメロディを聴くことができると思いました。

「おおむね満足できる」状況(B)の評価では、制作したプログラムに対して評価し、課題を設定する記述があったが、具体的な改善策が見られなかった。「十分満足できる」状況(A)の評価では、別のセンサーを利用することで、更なる改善策(よりよいものとなるような改善策)を考えている。

また、題材終了後の生徒アンケートで「今回使用したセンサーと出力を利用して世の中を便利にする製品を考えてみてください。」の質問に対して、生活や社会の中での計測・制御システムの利用に目を向けたり、新たな開発者の視点で計測・制御システムの活用について考えている記述も見られた。

《生徒記述》

- ・どこかでじこがあって大きな音で「どん」となったらじどうでつうほうしたり、カメラがつくようになったらすぐにつけられる
- ・家に誰もいないときに、誰かが入ってきたら反応する防犯センサー

◎ 実践の効果

本題材は、計測・制御のプログラムによって身の回りの生活を便利にするシステムを4名1グループで開発する内容である。

4名でお互いに「こんなシステムにしたい」「こんなセンサーを使っていきたい」など構想したり、構想を基に協力してプログラムを制作し、システムを開発していく。そのため、「未来シート」では多くの生徒が「協力する力」を伸ばすことができたという回答している。また、その他にも新しいシステムを開発するということで「発想(想像)する力」や「目標設定のために計画を立てる力」、プログラムのデバッグを繰り返して完成することで「最後までねばり強くやり通す力」が伸ばすことができたという回答している。また「伸ばすことができた力」だけでなく、「もっと自分に必要な力は何なのか」を模索しようとしている記述も見られた。

- ・最後までねばりつよくやり通すのはとても大切だと思ったし、途中であきらめたら何にもできなとわかった。
- ・先を見据えて、計画することができたり、振り返りをしたり、最後までやりとげられたけど、改善点があったり、物足りないところがあった気がした。

実践10 外国語

単元名：Unit 5 Earthquake Drill (第2学年)

○ 教科の目標

学びに向かう力，人間性等
(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

○ 単元の目標

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
(1) 防災に関する英文を読んだり聞いたりして理解し，情報を基に自分の考えなどを表現する技能を身に付ける。	(2) 防災に関する英文を読んだり聞いたりした情報を基に，非常時取るべき行動を判断したり，状況に応じた行動や考えなどを表現することができる。	(3) 防災に関することについて，非常時取るべき行動を判断したり相手の立場に立って考えなどを表現しようとしている。

○ 単元の評価規準（2領域） 「聞くこと」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①助動詞や命令文を用いた表現の特徴やきまりを理解している。 ②助動詞や命令文を用いた表現の理解とともに，スピーチやアナウンスなどで話された内容を捉える技能を身に付けている。	①防災に関する話やアナウンスなどで話された内容を理解し，情報を整理しながら聞き取ったり捉えたりしている。	①防災に関する話やアナウンスなどで話された内容を理解し，情報を整理しながら聞き取ったり捉えようとしている。

「話すこと【やりとり】」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①助動詞や命令文を用いた表現の特徴やきまりを理解している。 ②助動詞や命令文を用いた表現の理解とともに，防災について考えたことや感じたことを伝え合う技能を身に付けている。	①防災に関して読んだり聞いたりしたことについて，考えたこと，感じたことなどを引用したり，相手の考えなどを元に伝え合っている。	①防災に関して読んだり聞いたりしたことについて，考えたこと，感じたことなどを引用したり，相手の考えなどを元に伝え合おうとしている。

◎ キャリア教育の視点を踏まえた授業改善

評価規準に沿って、「聞くこと」と「話すこと【やりとり】」2領域のパフォーマンステストを設定する。単元始めに目標とパフォーマンステストの内容を確認し，自分の付けたい力を「未来シート」で設定，単元終了時には，パフォーマンステストのフィードバックとともに，学習過程を振り返る。単元全体を通して，パフォーマンステストにつなげる課題（Small Talk、グループ活動など）を設定する。

○ 指導と評価の計画（全10時間）

時間	☆本時の目標 ○学習内容	評価の観点と評価方法 ○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価
	○単元前リーディングテスト	

1	☆単元のゴールを理解し、目標を立てる。 ☆Part 1 のストーリーを理解し、音読できる。 ○Project Journal、「未来シート」の記入 ○身体のパーツの語彙を確認 (Activity : Simon Says) ○Listening 【指導の留意点】 ・教師の発問や生徒のつぶやきなどをつなぎ、単元への興味・関心を引き出す。	〔聞くこと〕○知①② 行動観察 ワークシート
2	☆地震が起きた時、しなければならないことを理解する。 ☆have(has) to の働きを理解する。 ☆Part 1 の内容理解 ○What do you have to do at home? 【指導の留意点】 ・防災マニュアルなどはシンプルな表現で書かれている、ということに気付かせる。	〔聞くこと〕○知①② 〔話すこと〕○知①② ○思① 行動観察 ワークシート
3	☆don't have to の定着と 3 人称の表現を理解する。 ☆防災マニュアルにある表現を理解する。 ○Small Talk 3 人で has to の表現の確認 drop / cover / hold on 【指導の留意点】 ・防災マニュアルはシンプルな表現で書かれていることに気付かせる。	〔話すこと〕○知①② ○思① ワークシート 行動観察
4	☆must / must not、命令文の表現のきまりを理解する。 ☆動作を表す表現を確認し、実際に行動できる。 ○Simon Says (前時での動作を表す表現を実際にする) 【指導の留意点】 ・Simon Says で間違えた生徒に罰ゲームなどをしない。 ・must と don't have to の違いに気を付けさせる。	〔聞くこと〕○知①② ○思① 〔話すこと〕○知①② ○思①
5	☆p67 Listening 災害時に取るべき行動について理解し、表にまとめる。 ○Small Talk: When typhoon comes, what do you and your family do? ○沖縄で初めて Typhoon を体験する外国人にアドバイスする。 【指導の留意点】 ・p67 の Listening では、Heavy Snow など生徒に馴染みのないものは写真などを使用してイメージを持たせる。	〔聞くこと〕○知①② ○思① 〔話すこと〕○知①② ○思① 行動観察 ワークシート
6	☆Emergency Bag に関する語句を理解する ☆p68 の内容を聞いて彼らが選んだものを聞き取る。 ○Pointing Game 聞き取ったアイテムを指さし ○Part 2 の内容理解 【指導の留意点】 ・語彙指導の工夫と次時の should を活用につなげる工夫。	〔聞くこと〕○知①② ○思① 〔話すこと〕○知①② ○思① 行動観察 ワークシート
7	☆should / shouldn't のきまりを理解し、活用できる。 ☆should / shouldn't を使った表現を聞いて、理解できる。 ○防災バックに入れるべきものをその理由を提案する。 ○アイテムと理由をマッチングし、表現を確認する。 【指導の留意点】 ・パフォーマンステストに向けて、重要な表現を習得する時間である。 ・理由を述べるときの表現を工夫する。	〔聞くこと〕○知①② 〔話すこと〕○知①② 行動観察 ワークシート
8	☆パフォーマンステスト①Listening 「聞くこと」 ○災害時に日本にいる外国人にとってどんなことが不便だと思うか、どのようなことができるか、を考える。 【指導の留意点】 ・リスニングテストの時間配分に留意する。	〔聞くこと〕 ◎知①② ◎思① ◎態① パフォーマンステスト

9	☆Discussion Phrase の確認と練習 ☆パフォーマンステスト②の内容を理解し、準備する。 ○グループ内やりとり活動（これまでの学習を確認する） ○ループリックとテストの流れを確認する。 【指導の留意点】 ・評価の方法やテストの受け方などを確認し、意識を高める。	〔聞くこと〕○知①② ○思① 〔話すこと〕○知①② ○思① 行動観察 ワークシート
10	☆パフォーマンステスト② 「話すこと〔やりとり〕」 ○3人1組でALT/先生のところへ行き、テストを受ける。 ○残りの生徒はまとめの問題、未来シートの記入、振り返りを行う。	〔話すこと〕○知①② ○思① 行動観察 パフォーマンステスト
	○検証後リーディングテスト ○アンケート ○「未来シート」	

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価の進め方（パフォーマンステストの内容と分析）

2つのパフォーマンステストで、記録に残す評価としての「主体的に学習に取り組む態度」のループリックを示している。また北中城中学校で取り組んでいる Project Journal、「未来シート」の記述、行動観察などを補足的な評価材料とする。

「聞くこと」パフォーマンステスト①

Part 1 【知識・技能】Ms. Brown が防災バッグに入れるものについて説明しています。それぞれどれを説明していますか。

（内容）教科書にある防災グッズの絵に、生徒たちが追加したアイテム等の絵を加え、英文で説明されたアイテムを選択する問題。（5問）

Part 2 【思考・判断・表現】バングラデシュ人のアサドさんは日本に来て3年目のときに大きな地震を体験しました。アサドさんの話を聞いて話の流れに合うようにA～Eの絵を並べ替えましょう。
（内容）英文を聞き、絵を時系列に並べていく問題。既習の語彙を新しい状況の設定の中で聞きとり、内容を判断する。

Part 3 【主体的に学習に取り組む態度】地震を体験したときのアサドさんの気持ちはどんなものだと思いますか。（1）～（4）の中から、あなたの考える彼らの気持ちを選び、その理由を日本語で書きなさい。

（1）He was angry. （2）He was nervous. （3）He was tired. （4）He was happy.

（内容）聞いた内容を理解したうえで自分の考えを述べる。この段階では英語で表現することは求めず、記述内容から主体的に聞く活動に取り組んだかを見取る。

パフォーマンステスト①ループリック

	知識・技能 Part 1	思考・判断・表現 Part 2	主体的に学習に取り組む態度 Part 3
A	4～5正解している。	正解している。	番号を選び、その理由を明確に書いている。
B	3問正解している。	() 2つはあっている。	番号を選び、一応理由を書いている。
C	B以下である。	B以下である。	番号を選んだのみ、あるいは無回答

【パフォーマンステスト①の分析】

「主体的に学習に取り組む態度」については、若干予想を下回る結果となった。「思考・判断・表現」と連動した内容になっているので、「C評価」の生徒が苦戦したと思われる。「聞くこと」の領域の「主体的に学習に取り組む態度」の評価は難しい部分ではあるが、「思考・判断・表現」での低評価の生徒も、「未来シート」の記述や行動観察などから、前向きに取り組んでいたことが見られたことは良かった。

知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
A	B	C	A	B	C	A	B	C
35.6	45.8	18.6	56.7	9.8	33.5	25.4	53.0	21.6



Simon Says で聞き取った動作を確認する様子

「話すこと [やりとり]」パフォーマンステスト②

- 手順 1. テストは3人1グループで実施します。
 2. 先生が順番を割り当てるので、会話の型（順番）にそって、やりとりをしてください。
 3. ルーブリックをよく読んで理解しておくこと。

Part 1【知識・技能】

防災バッグを準備しようと思っています。それぞれ入れるべきだと思うアイテムを1つずつ挙げ、その理由を述べてください。 他のメンバーが話したことは話せません。

Part 2【思考・判断・表現】

先生が示す状況に応じて、さらに Item を追加しようと思います。グループの他のメンバーが話したことをよく聞いて、会話を続けてください。

【主体的に学習に取り組む態度】Part 1,2 を総合的に評価する。

パフォーマンステスト②ルーブリック

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	ほぼ間違いはなく、Part 1 ができている。	ほぼ間違いはなく、Part 2 ができている。	他のメンバーに配慮しながら、やりとりをつづけるためにリーダー的な役割を担っている。
B	多少の間違いはあるが、Part 1 ができている。	多少の間違いはあるが、Part 2 ができている。	他のメンバーに同意するだけでなく、やりとりを続けようとしている。
C	B を満たしていない	B を満たしていない	B を満たしていない

【パフォーマンステスト②の分析】

「知識・技能」は授業内で学習したことの定着度を、「思考・判断・表現」は、その場で与えられた状況に応じて表現する力を見取る。「主体的に学習に取り組む態度」はやりとり全体の様子から評価する。全体的に3人で協働しながら取り組む姿が見られた。約11%の生徒に課題が見られるが、これは「思考・判断・表現」の部分と連動していると思われる。指導の過程で、日々の活動とパフォーマンスの関連性をより意識させたい。

知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
A	B	C	A	B	C	A	B	C
65.1	30.1	4.8	39.7	45.9	14.4	47.9	40.4	11.6



第10時：3人でパフォーマンステストに取り組む様子

◎ 実践の効果

生徒のアンケートより

単元目標を意識しながら授業をうけることができましたか。		パフォーマンステストはどうでしたか。	
そう思う	45.2 %	両方できた	40.0 %
どちらかといえばそう思う	41.3 %	「聞くこと」(リスニング) はできた	32.0 %
どちらかといえばそう思わない	7.9 %	「話すこと [やりとり]」 はできた	11.2 %
そう思わない	5.6 %	両方難しくできなかった	16.8 %

「未来シート」の記述より（アルファベット表記は、生徒が選んだ「かふやみ20の力」）

- ・行動を振り返り、改善につなげる力が伸びた。（ふり返る力 C）
- ・グループの人に迷惑をかけたところもあったけど、自分のできないところがわかった。（みとおす力 S）
- ・テストのとき練習したことをきちんとやれた。（やりぬく力 D）
- ・かかわる力が伸びた。協力してできたから。

協力員からのコメント

M 多様な集団の中で他者とかかわる力、O 発想（想像）する力、を選ぶと予測していたが、生徒たちはそれぞれ自分の目標を設定していた。また、目標以外に伸びたと思う力についても、それぞれよく考えてコメントしている。キャリア教育の視点を授業に加えることが有効であると感じた。

実践 11

総合的な学習の時間

単元名：産業教育実践講座を通して職業について学ぼう

(第2学年)

○ 教科の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な時間のよさを理解するようにする。	(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。	(3) 探究的な時間に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。



○ 単元の目標

産業体験プログラムを通して、身の回りのものが産業と深く関連している事を理解し、目的や対象に応じて産業体験プログラムを体験し、職業と働くことの意義を考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。



○ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①【概念的な知識の獲得】産業は、農業、工業、商業等の各分野に分かれていること、身の回りのものが産業と深く関連していることを理解している。 ②【技能の獲得】産業体験プログラム活動を通して、目的や対象に応じた体験活動を実施している。 ③【探究的な学習のよさの理解】産業体験プログラムにおいて、働くことの意義を考え、将来の職業選択や探究的に学んだことによる成果であると気付いている。	①【課題の設定】産業との関わりを通して課題をつくり、解決の見通しをもっている。 ②【情報の収集】課題の解決に必要な情報を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。 ③【整理・分析】課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えている。 ④【まとめ・表現】聞き手や目的に応じて、分かりやすく表現している。	①【自己理解・他者理解】課題解決に向け、見通しをもち、自分の良さに気づき、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ②【主体性・協働性】職業と自分との関わりに関心をもち、自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。 ③【将来の展望・社会参画】職業と自分との関わりに関心をもち、今後の学習、生活の在り方や自分にできることを見付けようとしている。

◎ キャリア教育の視点を踏まえた授業改善

本単元においては、農業・工業・商業を連携させた産業体験プログラムを通して職業理解につなげ、中学生のキャリア教育の充実を踏まえた授業改善を目指した。

テーマ①「酸乳飲料の商品開発」とテーマ②「植物工場野菜の商品化プロジェクト」に分かれて疑似職業体験学習し、働くことや生き方、社会に関心を持つことができるよう工夫した。

○ 総合的な学習の時間への位置づけ

中学校学習指導要領（平成29年3月）では、生徒に将来、社会や職業で必要となる資質・能力を育むためには、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる資質・能力を育む、キャリア発達を促すキャリア教育の視点も必要であると述べられている。

産業教育班は、産業教育共同利用施設（＝高校テクノセンター）としての役割はもちろん、農工商の産業分野が一つの場所に集結しており、連携した職業教育が実践できる。このことにより、従来の産業分類を超えた複合的な産業で求められる職業人としての知識、技術に対応した実践的教育が可能となる。

総合的な学習の時間におけるキャリア教育の視点に立った講座として、農業・工業・商業を連携させた体験的プログラムを構築し、本プログラムを通して職業理解につなげ、働くことや生き方、社会に関心を持つことができるよう産業教育を活かした中学生のキャリア教育の充実を目指す。

○ 産業教育実践講座とは

この講座は、2つのテーマに分かれ職業に見立てたチームで活動を行い、それぞれのミッションを達成させるという内容である。テーマ①「酸乳飲料の商品開発」と テーマ②「植物工場野菜の商品化プロジェクト」について体験学習する。詳しい内容は、図1に示す。

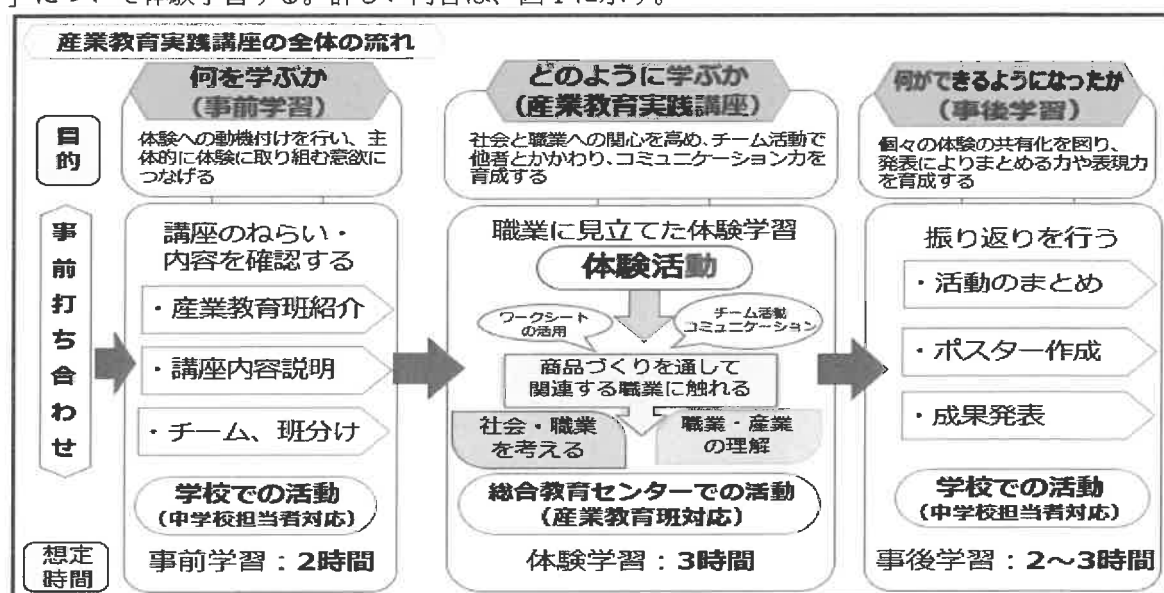


図1 産業教育実践講座(全体)の流れ

○ 産業教育実践講座（体験活動）の実践報告

課題設定（2時間）中学校にて（事前学習）

「地域に目を向け体験で未来探し!」「産業技術教育センターでの体験学習を通して生活の中の仕事や未来の自分を探してみよう!」のめあてでスタートし、体験への動機付けを行い、主体的に体験に取り組む意欲に繋げるため、産業技術教育センターの概要説明、実践講座での学習概要の説明を行う。その後、各テーマに班分けを行う。



産業体験学習（3時間）当センターにて（体験）

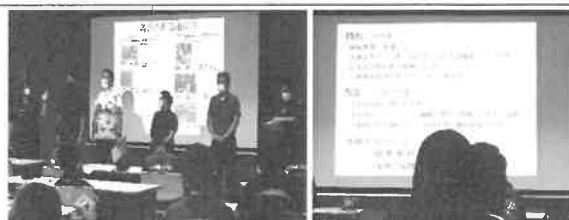
オリエンテーション（全員）

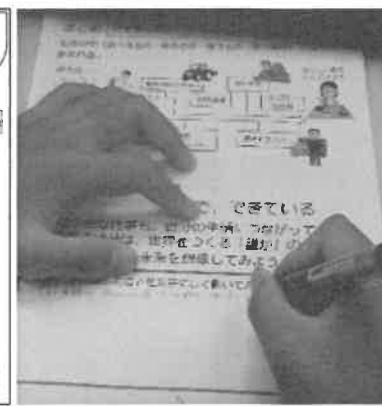
産業体験学習の概要説明

- ・班活動を行い、一つの製品をつくり上げる。

ねらい

- ・産業の繋がりや職業に対する理解を促す。
- ・産業体験学習を通して、興味・関心等を高め「勤労観」や「職業観」の形成を目指す。



テーマ① 酸乳飲料の商品開発 ミッション【オリジナル酸乳飲料をつくる】			テーマ② 植物工場野菜の商品化プロジェクト ミッション【売れる野菜にするためには】		
チーム全員でオリジナル酸乳を考える。添加する果汁やフレーバーを話し合い決定する。その商品から導かれるイメージワードやフレーズを使って商品名やPRポイントを考え出す。			植物工場の見学・説明を通して、野菜の栽培や環境制御の仕組みを理解する。また、植物工場で栽培されている野菜の特徴、安全性や制御について学習し共通の知識として理解する。		
					
製造班	ラベル作成班	商品ポスター班	栽培班	商品タグ作製班	PR チラシ作成班
添加する果汁とフレーバーを加え、酸乳飲料を製造。	商品イメージから買いたくなるようなラベルを作成。	商品イメージから買いたくなるようなポスターを作成。	リーフレタスの播種（種まき）から収穫までの栽培の一連の流れを体験。	植物工場野菜に付加価値をつけるための金属製の商品タグを作製。	制御に関する学習のあと、この野菜がなぜ安全でおいしいのかPRするチラシを作成。
					
製造した酸乳飲料にラベルを貼り、ポスターを添えて1つの商品にする。活動を振り返り、班での作業内容をチーム全体に発表し、情報共有する。			収穫した野菜にチラシやタグを付け1つの商品にする。活動を振り返りまとめ、班での作業内容をチーム全体に発表し、情報共有する。		
					
産業体験学習のまとめ（全員）					
「何ができたか」「何がわかったか」「一つの商品を仕上げるために」等の質問をすることで、産業体験学習を振り返った。産業体験学習のまとめとして、製品が手元に届くまでに多くの職業や働く人が関わり、「誰かの仕事」が自分の生活につながっていることや「未来の自分は世界をつくる誰かの一人である」ことを確認し、講座のまとめとする。					
					

リフレクション（2～3時間）中学校にて（事後学習）

事後学習では、テーマ毎の班に分かれ体験学習での情報を整理し、グループ内で共有する。ワークシートや撮影した画像を確認しながら振り返りを行う。発表は、各班紹介したい場面の写真やその説明文、体験学習の感想等を盛り込み、プレゼンテーションソフトを使用して発表する。発表する生徒、発表を聞く生徒どちらも集中して発表会が行われ、発表後に産業教育実践講座を終えての事後アンケートを実施する。



○ アンケートより

事後アンケート（生徒）

実践講座終了後に北中城中2年生 119 名に対して実施した。「今回の『産業教育実践講座』は、どうでしたか」の問いに対して「良かった」「やや良かった」と回答した生徒は 113 名(95%)いた。「今回の班の活動で大切だと感じたことは（複数回答可）」に対しては、回答の多い順に「協力する力 84 名」「他者とかかわる力 58 名」「計画を実行する力 54 名」「自己の役割を理解する力 47 名」と続いている（表1）。「産業教育実践講座の感想」では、「貴重な体験ができたし楽しかったです」「グループのみんなでラベルを作るのが楽しかったし、いい体験ができた」や「たくさんの人々が協力して社会が成り立っていることが分かった」「一つの物をつくるのにいろんな人の作業が携わって凄いことだと感じた」「とてもいい体験で楽しい1日でした。また、将来の見通しを持つことができたので良かったです」などの感想があった。「産業教育実践講座は、あなたの進路選択に役立つかと思いますか」の問いに対しては、「とても思う」「思う」を合わせて 94 名(79%)の生徒が回答した。「自分の生活は、いろいろな職業・仕事とつながっていることがわかりましたか」の問いに「よくわかった」「わかった」を合わせて 114 名(95%)の生徒が回答した。「今あなたが勉強していることは、将来役立つかと思いますか」では、「きっと役立つ」「どちらかといえば役立つと思う」を合わせて 98 名(82%)回答している。

事後アンケート（職員）

実践講座終了後に北中城中職員7名にアンケートを実施した。「『産業教育実践講座』は、生徒にとってためになるものでしたか」の問いに対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した職員は6名(86%)で「どのような点でためになったと思いますか（複数回答可）」に対しては、回答の多い順に「職業への興味・関心6名」「今後の学ぶ意欲の向上5名」「将来の夢・希望の広がり5名」と続いている。「『産業教育実践講座』についての感想」では、「身のまわりの商品が、多くの人々の力で作られていく過程を知ることができたので、子どもたちにとって貴重な体験となりました。」や「3学年の最初の時期に行うとよりキャリア教育の充実にもなると思います。」などの感想があった。

表1 事後アンケート

今回の班の活動で大切だと感じたことは何ですか（複数回答可）

n=119	
項目	人数(人)
協力する力	84
他者とかかわる力	58
計画を実行する力	54
自己の役割を理解する力	47
発想(想像)する力	45
考えや気持ちを伝える	44
最後までねばり強くやり通す力	33
社会の一員として社会を積極的に形成する力	33
問題を発見できる力	29
行動を振り返り、改善につなげる力	28
自分の目標を設定する力	27
将来を想像する力	25
人や地域を大切に思う気持ちや感謝する心	23
情報・アドバイスを正しく理解し、自分を見つめる力	23
立てた目標を確認し次につなげる力	21
課題に対応した計画を立てる力	20
自分の良いところを見つめる力	17
間違いや他人との違いをおそれない	16
目標設定のために計画を立てる力	16
自分の意志で判断してキャリアを形成していく力	16

◎ 実践の効果

アンケート（生徒、職員）より生徒は、各チーム活動を通してミッション解決のために「他者とかかわる力」「協力する力」「計画を実行する力」と記述しており、必要な力に気づくことができた。産業教育実践講座を通して、1つの商品をつくるのに多くの人の作業が携わっていることを知り、職業への興味・関心を持つなどキャリア教育へと繋げることができた。また、将来の進路（自分の才能を生かす仕事）に向けて、今後の学ぶ意欲の向上に繋げることができた。

実践12 特別支援教育

特別支援教育に関する研修・授業づくりサポート

「主体的に学習に取り組む態度」の基盤づくりとして、特別支援教育についての講義の中で発達障害の特性や支援の方法等について職員と共通確認や、知的障害特別支援学級における授業づくりのサポートを行う。

職員向けアンケートの実施

7月に職員へ生徒の対応で困っていることがあるのか「特別な支援を要する生徒に関するアンケート」を実施した。11名の職員からの回答があり、「板書が最後まで書けない」「漢字が苦手」といった読み・書きに困難を抱える生徒、「意図が伝わりにくい」「授業中おしゃべりして落ち着かない」といった授業に集中ができない生徒への対応や障害特性に対する専門的な知識が十分でないとの回答があった。

アンケートの回答(一部抜粋)

- ・板書が最後まで書けない
- ・漢字が苦手、数学等の計算は手助けを要する
- ・集中して取り組めずおしゃべりなど落ち着かない
- ・意見交換やグループ学習が難しい
- ・できないと感じたら作業ストップ 等

特別支援教育に関する研修 講義「発達障害の特性理解と支援について」

職員アンケートにあげられていた子供達の支援を考えるにあたり、冰山モデルを用いた発達障害の特性理解と支援方法に関する講義・演習を実施した。

先生の困り感と子供の困り感は同じ？

先生と生徒との困り感は必ずしも一致せず、生徒の困り感にアプローチすることが重要

先生の困り感 ≠ 子供の困り感

先生の困り感
授業中のおしゃべりがあり、集中力が続かない

もしかしたら…

子供の困り感

- 周りの刺激が気になってしまう
- 読んだり書いたりすることに精一杯で学習内容が理解できない

先生の困り感
板書が最後まで書くことが難しい

もしかしたら…

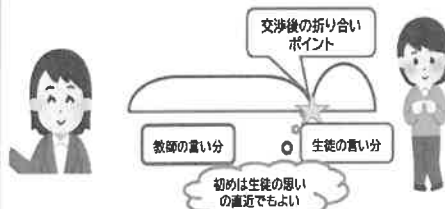
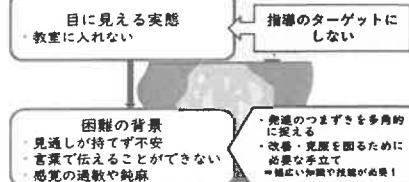
子供の困り感

- 板書を見て、ノートを見るときに書いてあったのか思い出せない
- 書く時に時間がかかってしまう

冰山モデルとは

「人の様々な行動を水面上の一角に例え、その部分だけではなく水面下の要因に着目する視点です」支援を考える際、目に見える実態を指導のターゲットにせず、生徒の背景にある要因を探ることが支援を考える第一歩になります。

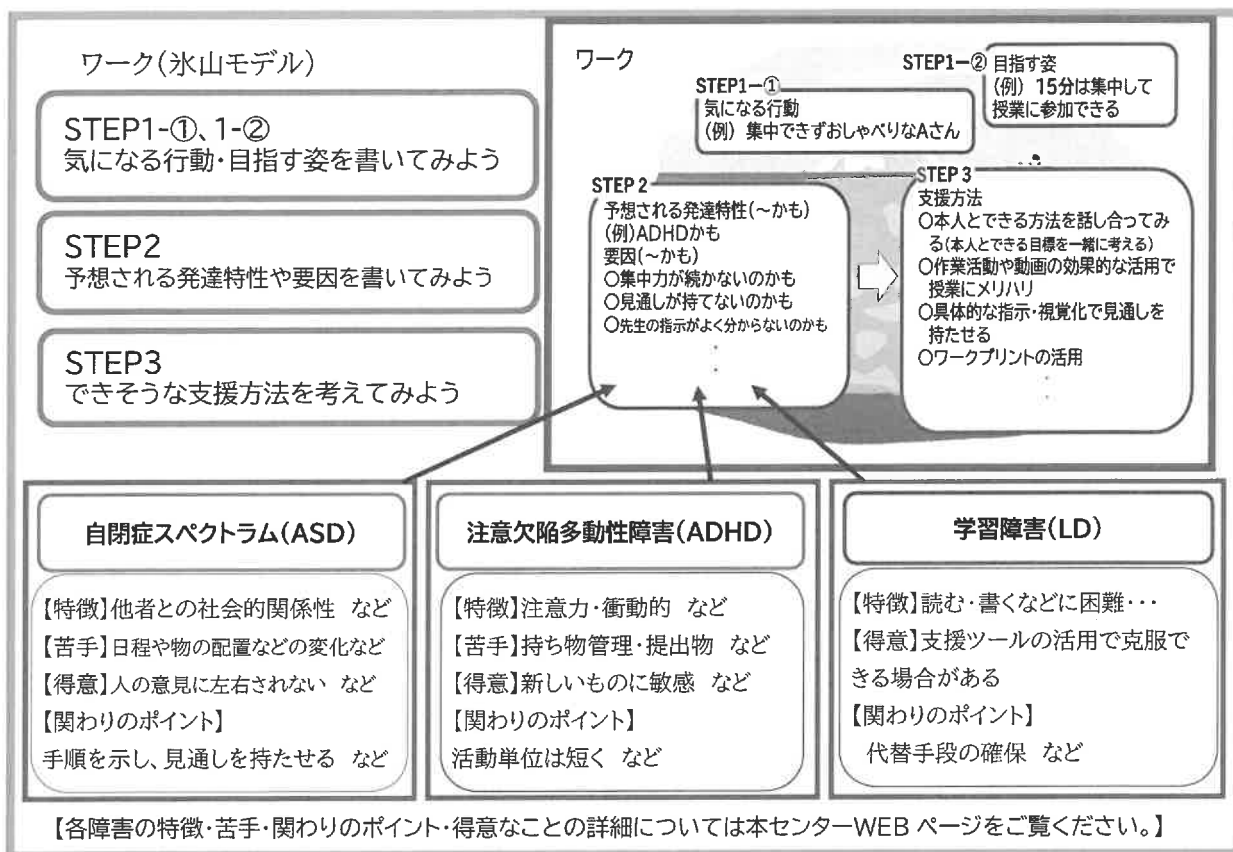
指導・支援を考える(冰山モデル)



提案・交渉型アプローチ「叱らないけど譲らない支援」

生徒との話し合いの中で「提案・交渉型アプローチ」を行い、生徒の気持ちに寄り添いながら、問題解決に向けたいくつかの方法を先生が「提案」し、生徒と「交渉」する中で、子供の自主的・主体的に解決に向けた行動を「選択」できるように指導・支援することが有効です。そのためには日頃からの生徒への言葉かけなど信頼関係づくりも大切!!

「提案・交渉型アプローチ」武田哲郎(2020) 参照



研修を受けての職員からの感想(一部抜粋)

- ・グループワークで支援方法を考えるのが良いと思った。要因も多面的に考えられたので良かった。
- ・生徒との信頼関係づくりや授業の進め方、生徒との関わりについてみんなで確認できたので良かった。
- ・気になる生徒を表面上だけで見るのではなく、背景を知る大切さを知った。他の教師からの違うアドバイスもとても良かった。

知的障害特別支援学級における授業づくりサポート

特別支援教育の視点を大切にした授業づくり

- *生徒に提示する資料は焦点化しやすいようにイラストを活用し視覚化する。
- *タブレットを活用するなど多様な表現方法を選択できるようにする。
- *生徒同士がお互いの意見を伝えやすい学級の支持的風土づくりを大切にする。



授業の参観 生活単元学習「SDGs 自分にできることを考えよう」(5/6校時)

教材も丁寧に作成され、提示する資料の文字も生徒が分かりやすい大きさに工夫されており、文字を書くことが苦手な生徒へは、ロイロノートを活用することで生徒も自分のペースで文字を入力し提出する場面が見られた。



(反省会での助言)

- *評価基準を定めて、どのような姿が見られたらどの評価にするのかを明確にするとよい。
 - *生徒が見通しを持ちやすくなるように、手順表や具体的な指示を行うとよい。
 - *振り返りシートは生徒の実態に合わせるとよい。
- (文章表現が苦手な生徒には、穴埋めにして分量の調整を図る)
- *成果をポスター等にして掲示することで学びの振り返りや生徒の自信につながるようにするとよい。

◎ 実践の効果

- ・特別支援教育についての講義の中で発達障害の特性や支援の方法等について職員と共通確認を行うことができた。
- ・知的障害特別支援学級において、視覚化や表現方法等を確認し、特別支援教育の視点を大切にした授業づくりをサポートすることができた。

IV 実践の考察と普及

1 実践1「キャリア発達 新たな一歩」に対する考察

本実践は、協力校の全学年全学級において実施した。導入では、授業者が「働く時に必要な力ってどんな力かな？」と問うことで、動画への関心を高めさせていた。カードワークでは、グループで台紙を指差し合って自分の考えを相手に伝え合いながら合意形成を図る姿が見られた。そして、ワークシートには、学年末までに身に付けたい力を「かふやみ20の力」の中から3項目を選び、その理由を記述していた。下表6は、生徒がどの力を選択していたかについて、学年別にまとめたものである。

表6 生徒が選択した「かふやみ20の力」 (n=1学年137、2学年110、3学年150、全体397)

4 領域	「かふやみ20の力」項目	1 学年		2 学年		3 学年		全体	
		選択 数	順位	選択 数	順位	選択 数	順位	総選 択数	順位
か か わ る 力	①多様な集団の中で他者とかかわる力	26	5	20	5	28	6	74	6
	②進んで考えや気持ちを伝え合う力	5	17	13	9	21	9	39	13
	③人や地域を大切に思う気持ちや感謝する心	22	8	11	10	18	12	51	9
	④協力する力	52	1	32	3	43	2	127	2
	⑤社会に参画し、社会を積極的に形成する力	5	17	4	20	3	20	12	20
ふ り 返 る 力	①行動を振り返り、改善につなげる力	33	4	26	4	37	4	96	4
	②自己の役割を理解する力	14	12	7	15	7	18	28	16
	③情報・助言を正しく理解し、自分を見つめる力	4	19	11	10	15	13	30	15
	④自分の良いところを見つめる力	17	11	8	14	9	17	34	14
や り ぬ く 力	①問題を発見できる力（問いを立てる力）	7	16	7	15	14	15	28	16
	②計画を実行する力	22	8	38	2	43	2	103	3
	③課題に対応した計画を立案する力	9	14	6	18	13	16	28	16
	④発想（想像）する力	24	6	16	7	15	13	55	7
	⑤間違いや他人との違いをおそれない力	20	10	11	10	19	11	50	10
	⑥最後までねばり強くやり通す力	41	2	40	1	57	1	138	1
み と お す 力	①将来を想像する力	36	3	20	5	31	5	87	5
	②自分の目標を設定する力	23	7	11	10	21	9	55	7
	③目標設定のために計画を立てる力	12	13	7	15	22	7	41	12
	④立てた目標を確認し次につなげる力	9	14	16	7	22	7	47	11
	⑤自ら主体的に判断しキャリアを形成していく力	4	19	5	19	5	19	14	19

この結果は、予想以上に興味深いデータを示している。まず、総選択数で1位の「や⑥：粘り強く」と2位の「か④：協力する」が県教育計画で打ち出された教育目標と合致するという点を特記しておく。次に、全体の上位5項目が4領域（かかわる力・ふり返る力・やりぬく力・みとおす力）に分散しているという点である。選択する際に指定したわけではないが、生徒たちは無意識ながらも「バランスよく4領域の力を伸ばしたい」という本能があると分析できる。さらに、各学年の上位5項目は、他学年でも上位であるという点である。これは、伸ばしたい力（項目）に共通性があると考えられ、教員側もこの力を意識した学級・学年・学校の目標を打ち出すことで、両者合意による学校づくりになると思われる。一方、下位となった項目にも全学年共通の傾向が見られた。「か⑤：社会に参画し、社会を積極的に形成する力」や「み⑤：自ら主体的にキャリアを形成していく力」である。様々な要因があると考えられるが、「参画」や「キャリアを形成」といった中学生期には馴染みの薄い用語となっていることも一因と捉える。選挙権年齢や成人年齢の引き下げに伴い、これまで以上に主権者教育の重要性が増している高等学校と比較するなど、今後、更なる考察を加えてみたい。

次に、各学年複数の生徒が選択した「かふやみ20の力」とその3項目を選んだ理由の記述（表7）より分析する。選んだ理由の記述（表7右枠）からは、「今の自分に足りない点」から3項目も選んでいる生徒が多いことが読み取れる。これまでの自分自身の言動を振り返って思考した結果と考えられる。このことは、自己肯定感を高めようという意志の表れとも捉えられる。一方で、「これからはこの力が求められるのでは？」と未来を意識した視点から選んでいる生徒もいる。これは、「みとおす力」が働いた結果と考えられる。これらより、過年度プロジェクト研究で課題の一つとして挙げられていた「自己肯定

感を高める取組」や「みとおす力やふり返る力を意識することが弱かった」ことに対して、本実践が効果的に作用したと推察する。

表7 学年末までに身に付けたい力（項目）とその力（項目）を選んだ理由（ワークシートへの記述）

学年等	選択した「かふやみ 20 の力」の3項目	その3項目を選んだ理由
1 学年	生徒 a や⑥：最後までねばり強くやり通す力 か④：協力する力 ふ①：行動を振り返り、改善つなげる力	最後までねばり強くやり通す力がないから。 クラス全体で協力したいから。 行動を振り返り、良くしていきたいから。
	生徒 b か②：進んで考えや気持ちを伝え合う力 ふ④：自分のよいところを見つめる力 み③：目標設定のために計画を立てる力	自分の考えをみんなと共有できるから。自分の良い点・悪い点がわかるから。今日のゴールに沿って大人になっても使える力だから
2 学年	生徒 c み④：立てた目標を確認し次につなげる力 ふ④：自分のよいところを見つめる力 や⑤：間違いや他人との違いをおそれない力	将来の目標に向けて計画や行動ができていないから。自分の悪いところをいっぱい見つけてしまうから。周りに合わせるだけではなくもっと自分を出せるようにしたいから。
	生徒 d か③：人や地域を大切に思う気持ち感謝する心 や⑥：最後までねばり強くやり通す力 や⑤：間違いや他人との違いをおそれない力	これからたくさんの人やモノと出会っていく中で感謝の心を忘れないようにしたいし、最後までやり抜くことが今はできず、間違いや違いをおそれず自分らしく生きたいから。
3 学年	生徒 e み①：将来を想像する力 や①：問題を発見できる力 か③：人や地域を大切に思う気持ち感謝する心	将来の夢や目標がまだ決まっていない。そのためにも、問題を発見できる力と感謝する心を身に付けたいから。
	生徒 f や⑥：最後までねばり強くやり通す力 み③：目標設定のために計画を立てる力 か②：進んで考えや気持ちを伝え合う力	受験のためにもやり遂げる力が必要！ 計画を立てないと実行できないから。 なかなか伝えられてないと思うから。

また、ワークシートの振り返りの欄には下表8の記述が見られた。本学習を終えて今の気持ちを、提示された14個の感情を表すキーワードの中から3個選び（本稿4頁、図4②参照）、その理由を記述する振り返り法である。「大変だ・わくわく・伝えたい」を選んだ生徒gからは、希望と高揚感が感じられる。また、「わかった・ありがたい・見つけた」を選んだ生徒hからは、自己理解が進んだことや本学習への感謝の気持ちが読み取れる。そして、「やりたい・うれしい・すっきり」を選んだ生徒iからは、行動する勇気の高まりが感じられる。いずれも「次の一歩」へ踏み出す気持ちとなっていることから本実践の題材名である「キャリア発達 新たな一歩」となったと捉える。なお、協力員からは、「これまでの振り返りに比べると無記入や一言の感想が減り全体的に記述量が増えた」という所感があった。ワークシートに気持ちを表すキーワードが列挙されていることが記述量の増加につながったと考える。また「生徒同士で相互比較もしやすそうだった」とワークシートのさらなる有用性を示唆する感想もあった。本実践以外の様々な振り返り活動においても応用するなど、その効能を考察することを推奨したい。

表8 ワークシートにおける振り返りの記述（学習後の気持ちを3個選び、その理由を記入する）

学年等	選んだ3個の気持ち	その3個の気持ちがした理由
1 学年 生徒 g	大変だ わくわく 伝えたい	キャリア発達のために色々やらないといけないから大変。でも新たな発見がありわくわくもしている。母に「こんなのをやった」と伝えたい。
2 学年 生徒 h	わかった ありがたい 見つけた	どんな力があるかや自分の足りない部分がいっぱいわかってありがたいなと思った。そして、自分が身に付けたい力を見つけることができた。
3 学年 生徒 i	やりたい うれしい すっきり	弱点を知りそれを3月までになくそうという気持ちが芽生えた。一歩踏み出すこと、やってみたいという気分がうれしいし、すっきりした。

さらに、本実践における考察のまとめとして、下表9の事後アンケートからも全ての設問に対して8割程度の肯定的な回答となっている。特に「動画によるグループワークは楽しかった」に対する肯定的な回答が高いことから、「かかわる力」のよさを体感する学習であったことが読み取れる（図8参照）。さらに、「中学校生活で身に付けたい力をイメージすることができた」という回答から、本実践がゴールとしていた「身に付けたい、伸ばしたい力を見つける！」が概ね達成できたと捉える。

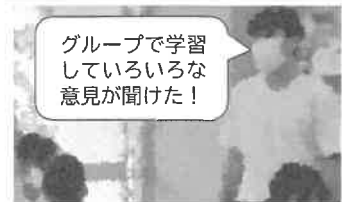


図8 授業後の感想発表の様子

表9 「キャリア発達 新たな一歩」学習後のアンケート（n=452）

Q1：動画によるグループワークは楽しかったですか。（%）		Q2：「かふやみ」について理解は深まりましたか。（%）		Q3：中学校生活で身に付けたい力をイメージできましたか。（%）	
①とても楽しかった	33.9	①とても深まった	26.5	①イメージできた	29.3
②まあまあ楽しかった	53.1	②まあまあ深まった	52.7	②まあまあイメージできた	52.8
③あまり楽しくなかった	9.5	③あまり深まらなかった	14.6	③あまりイメージできなかった	12.6
④全く楽しくなかった	3.5	④全く深まらなかった	6.2	④全くイメージできなかった	5.3

2 実践2～12「各教科等の実践」に対する考察（協力員・検証授業対象生徒アンケートより）

実践1を踏まえ、各教科等の実践では「未来シート」や各教科特有の手立ても取り入れながら「学びに向かう力」の育成を目指す授業を行った。その結果については、各実践紹介における「◎実践の効果」の欄を参照していただきたい。本項では、協力校で実施した協力員・検証授業対象生徒事後アンケートから実践2～12に共通する効果や課題等を整理して示す。

検証授業対象生徒に実施した事後アンケートから、9割に近い生徒が単元目標と「かふやみ」を結び付けて自分の目標を設定することができた（表10-Q1）、単元目標を意識しながら学習に取り組むことができた（表10-Q2）と肯定的な回答をしている。これは、生徒が目標達成に向けて調整しながら学習に取り組んだと認識していると捉えられる。協力員からは、「未来シート」を用いたことで、生徒が本単元で身に付けたい力と連動させながら単元目標をより一層、意識することにつながったという考察があった。「未来シート」を用いたことによって、「みとおす力」が有効に機能し、主体的に学習に取り組もうという内発的動機付けへつながったと捉える。

また、8割以上の生徒が「かふやみ」を用いて目標設定することで、普段の授業が将来役立つということを意識できたと肯定的な回答をしている（表10-Q3）。この点について、そう捉える理由を追究する必要があるが、「未来シート」の効用もあると考えられる。例えば、学習後に顔マークで自己評価したり、さらに伸びたと思う力を選択したりするなどの振り返り活動によって、普段の授業が現在だけではなく未来において必要とされる力の育成につながったという自己認識となり、この結果に結び付いたと考えられる。一方、協力員からは「授業内容をこなすことに精一杯で、未来シートへの声掛けがあまりできなかった」「生徒の個人差もあるが、記入時間の確保が難しかった」という課題も浮き彫りとなった。しかしながら「最終的に提出してもらった未来シートを見ると、授業の様子を生徒なりに振り返り、あの場面ではこの力を付けていたと考えていることが読み取れた」「総合的に生きる力につながる取組だと思う」といった所感もあった。今後はICTを活用した記録方法を取り入れるなど、「未来シート」の活用方法について検討が必要と考える。

さらに、これらの所感に加え、複数の協力員はこの事後アンケート結果の要因として、パフォーマンス課題の設定による効用を挙げていた。「パフォーマンス課題の設定によって、生徒が学習課題を自分事として捉え、単元全体を通してその課題を意識しながら取り組む姿が見られた」とその有効性を述べている。粘り強さの原動力は夢中になれる気持ちであり、課題設定や問い創りはその要と言える。本実践終了後も他単元において、パフォーマンス課題による授業実践を継続・展開している協力員もいる。今後、「未来シート」とパフォーマンス課題の相乗作用について、更なる研究が期待できると考える。

表10 検証授業対象生徒への事後アンケート（n=693）

Q1：単元目標と「かふやみ」を結び付けて、自分の目標を設定することができましたか。（％）		Q2：単元の目標を意識しながら、学習に取り組むことができましたか。（％）		Q3：「かふやみ」で目標設定することで、普段の授業が将来役立つということを意識できましたか。（％）	
①とてもできた	49.3	①とても意識できた	47.0	①とても意識できた	43.9
②まあまあできた	37.8	②まあまあ意識できた	41.6	②まあまあ意識できた	38.7
③あまりできなかった	10.5	③あまり意識できなかった	9.5	③あまり意識できなかった	13.3
④全くできなかった	2.4	④全く意識できなかった	1.9	④全く意識できなかった	4.1

そして、下表11は協力員が本実践終了後に担当主事と共有した所感の一部である。キャリア教育の視点を取り入れた授業実践による手応えだけではなく、単元デザインの重要性を認識している様子が見える。また、自分自身の授業改善の契機となったことに加え、研究立案のタイミングや教科・学校全体としての関わり方について等の課題提起もあった。今後の研究に生かしていきたい。

表11 協力員の所感（実践2～12において掲載した以外の所感）

- ◇キャリアの視点を意識させて行動に結びつけることは有効だと思うので、「かふやみ20の力」を日頃から学級掲示しておくなどの周知をすれば、様々な場面における効果が期待できそうだった。
- ◇評価の観点ごとにそれぞれ何を頑張るべきか生徒と共有できた点が一番良かった。
- ◇動画など教育センターに提供してもらい、いろいろなアイデアも共有できたのでブラッシュアップにつながった。
- ◇細かく丁寧な単元計画、評価規準、指導案を作成してもらったので授業の流れがスムーズで、自分自身の資質向上にもつながったと思う。
- ◇急な取組だったが、学ぶ要点を絞ってくださったので、生徒たちも意欲的に学習できたと思う。課外活動・体験的な活動で成長するんだと改めて痛感した。
- ◇年度始まる前から計画していろいろ考えられれば、もっと動きやすかったのではと感じました。
- ◇研究授業後の教科会で主事も一緒に授業改善について共有できたことはよかったが、もっと教科全体で関わられたらいろいろな角度から「学びに向かう力」の育成ができたと思う。

3 学校全体における変容(全教員・全生徒アンケートより)

本研究においては、各教科等における協力員を中心に授業改善に取り組んだ。協力員以外の教員とは校内研修や研究授業後の授業研究会といった限られた関わりであった。また、実践2～12における検証授業対象生徒も各教科等によって学年・学級に違いがある。しかしながら、協力校という位置付けを鑑み、学校全体における変容について全教員・全生徒への前後(6月・11月)アンケートを基に考察を加えることとする。

まず、「自分の考えを発表する場面では工夫して発表した(ていた)」(図9)に対して、生徒・教員双方とも6月と比較して増加した。中でも、協力員は全員が肯定的な回答となっており、本実践を通して自分の考えを相手に伝える「対話的な学び」に対する授業改善が図られたと捉える。

また、「話し合う活動により自分の考えを深めたり広げたりできていた」(図10)に対しても肯定的な回答に増加が見られた。この結果に呼応して多くの教員が学習活動の工夫をしていたと回答している(図11)。さらに、協力員は全員が肯定的回答をしている。R3学調課題に対して、学習活動の工夫がなされた結果と受け止める。実践2～12を参照し各学校において活用していただきたい。

一方で、図12の「課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいる」において生徒の肯定的な回答は微増に留まった。学年別では、2・3学年は増加しているが、1学年は微減となっている。学年間の差について、3月末までの変容を追跡する必要があると考える。また、図12については、教員間でも協力員とその他教員の間に顕著な差異が見られた。これは、協力員が実践に取り入れた「未来シート」や各教科特有の手立てに有用性を感じた結果と捉える。今後、教科会等を活用しながら認識の共有を行い、「自ら考え取り組む生徒」の授業づくりに向けて切磋琢磨していくことを期待したい。

最後に、「学習した内容について振り返り次の学習に生かす」(図13)ことに関して、生徒の肯定的な回答は微増したが教員は相反する結果となった。生徒の認識に対して、教員側には「もっとできるのでは」という期待が反映された結果と考えられる。また、振り返りを「行う」だけでなく、振り返りの「意図」が共有されていたかという点も含めて、深掘りしていく必要があると考える。

以上の考察より、課題もあるが、本研究における取組は、学校全体として教員・生徒双方に効果があったと捉える。言い換えると、教師側に一定の授業改善が図られたということである。本研究が生徒だけではなく、教師にとっても「キャリア発達 新たな一歩」となったと総括するとともに、今後も学びに向かう力の育成に向けた授業づくり、単元デザインを例示・助言していきたい。

《 図9～図13の見方 》

	生徒		教員	
	事前(6月)	事後(11月)	事前(6月)	事後(11月)
n	446	455	23	18

	肯定的な回答	消極的な回答
■	とてもしていた とてもできた	あまりしていなかった あまりできなかった
□	まあまあしていた まあまあできた	全くしていなかった 全くできなかった

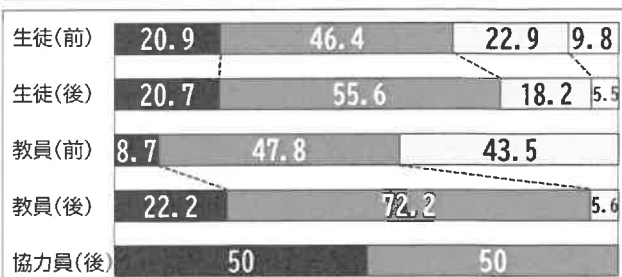


図9 自分の(生徒は)考えを発表する場面で、自分の考えが上手く伝わるよう工夫して発表していましたか

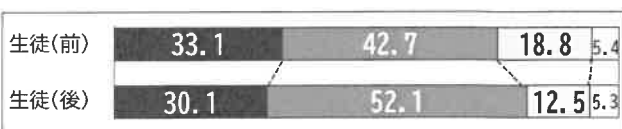


図10 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができましたか

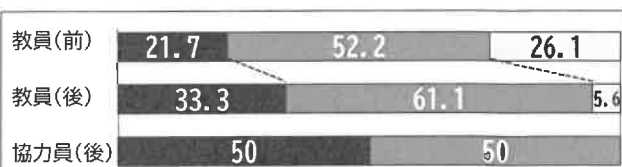


図11 生徒同士で話し合う場面では、生徒が自分の考えを深めたり、広げたりすることができるよう、学習活動の工夫をしていましたか

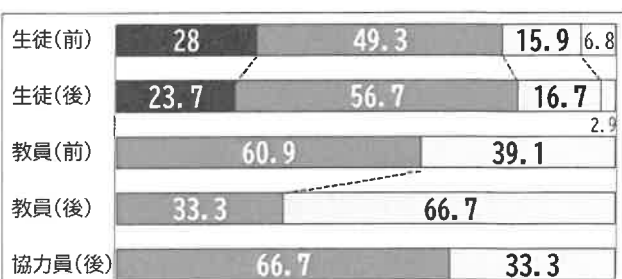


図12 授業では、課題の解決に向けて、(生徒は)自分で考え、自分から取り組んでいますか

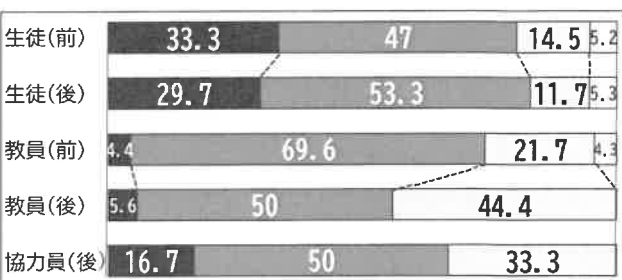


図13 自分(生徒)は学習した内容について、分かった点やよくわからなかった点を振り返ったり次の学習に生かしたりすることができましたか(できていますか)

4 実践1～12の普及

本実践の普及を図るために、フライヤーを作成し、県内各学校等へ配布することとした（次頁掲載）。表面には、児童生徒学習用動画「キャリア発達 新たな一歩」に関する紹介と、動画を含めた関連する各種データ・資料等のダウンロード用QRコードを掲載している。また、令和3年度のプロジェクト研究で作成した校内研修用動画「キャリア教育 はじめの一歩」についても案内した。

裏面には、各教科等における実践について、単元デザインのポイントとなるキーワードを明記した。そして、「未来シート」のテンプレートや実際の授業の様子の写真、作成・活用したワークシート等がダウンロードできるQRコードを掲載している。特に、本研究が中学校で行われた実践であることから、県内中学校には、各教科に1枚のフライヤーが届くように配布した。さらに、これらコンテンツを当教育センターWebページからも直接ダウンロードできるよう工夫した（図14）。今後、当教育センター主催の各種研修においても紹介していきたい。何より、各学校等において、これらが利活用されるとともに、児童生徒の学びに向かう力の育成に役立つことを期待したい。

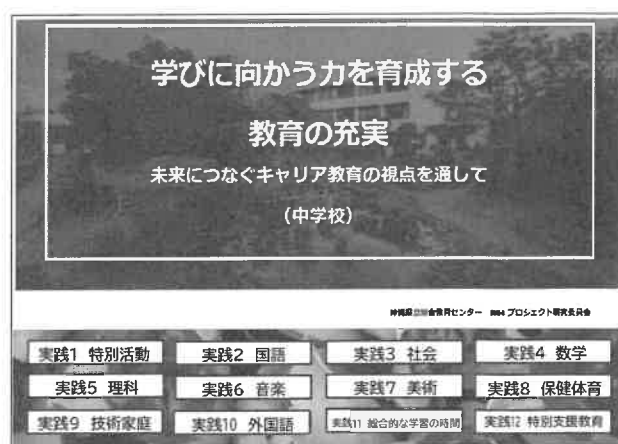


図14 本実践を紹介するWeb ページ

V まとめ

1 成果

- (1) 児童生徒学習用動画「キャリア発達 新たな一歩」を作成することができ、生徒にとって学年末までに身に付けたい、伸ばしたい力を見つけさせる取組となった。
- (2) 単元デザインに「未来シート」を取り入れたことで、キャリア教育の視点を位置付けた学習活動となり、単元目標を意識しながら主体的に学習に取り組もうとする内発的動機付けにつながった。
- (3) 中学校の各教科等における主体的に学習に取り組む態度を評価するまでの単元プランを例示することができ、教員に「単元をデザインする」という意識が高まり授業改善へとつながった。
- (4) キャリア教育の視点のみならず、パフォーマンス課題の設定やOPPシート等、各教科等特有の手立ても取り入れた授業づくりによって、学びに向かう力を育成する教育の充実が図られた。
- (5) 本研究で作成された動画や振り返りシート等の普及を図るため、QRコードを掲載したフライヤーを作成・配布することで各種成果物へのアクセス環境を整え、各学校での利活用を促進した。

2 課題と今後の展望

- (1) 本実践を他校種でも応用して活用するなど、本県児童生徒のキャリア発達を一段と促しながら学びに向かう力を育成する計画的・継続的な取組が必要である。
- (2) 本実践を展開する過程において、更なるICT活用場面を設定した授業を行うことで、児童生徒・教員双方にとって、どのような効果があるか検証する必要がある。
- (3) 本実践の手立てである「未来シート」の活用と、各教科等特有の手立てである「パフォーマンス課題」の相関性・相乗効果に着目した他単元や他校種等における取組を期待したい。

VI おわりに

本研究の遂行にあたり、様々な面から意見をくださり、最後まで協力していただいた北中城村立北中城中学校に深謝する。研究協力校あってこそ実現した研究である。とりわけ、照屋校長をはじめ、研究協力員として、本実践に対して精力的に取り組んでいただいた先生方の尽力に謝意を表すとともに、今後も本研究が発展的に活用されることを祈願する。

〈主な参考文献〉

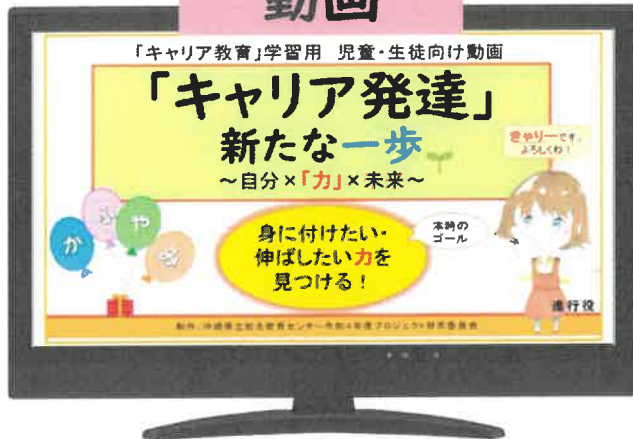
- 沖縄県立総合教育センター 2021 「一人一人の良さを未来へつなぐキャリア教育の在り方」
 石井英真 鈴木秀幸 編著 2021 『ヤマ場をおさえる学習評価 中学校』図書文化
 『授業力&学級経営力 12月号』 2021 明治図書
 沖縄県教育委員会 2020 「沖縄県キャリア教育の基本方針」
 田中耕治 編著 2020 『学びを変える新しい学習評価 理論・実践編1 資質・能力の育成と新しい学習評価』ぎょうせい
 西岡加名恵 石井英真 編著 2019 『教科の深い学びを実現するパフォーマンス評価』日本標準

ワークショップスタイルで「キャリア発達」を図ろう！ 動画で「キャリア教育」シリーズ 第2弾

対象：小学校高学年～高校生、 所要時間：約40分
場面：学級・HR活動、総合・総探の時間等

ダウンロードセット内容

動画



ワークシート

「キャリア発達」新たな一歩 ～自分×「力」×未来～ (月) (日) (年) (期) (番) 氏名

【今日のゴール】 身につけたい、伸ばしたい力を見つける！

- 「キャリア発達」とは？ 社会の中で自分の()を素たしながら、自分らしい()を実現していく過程のこと
- 「キャリア発達」のために？ 自分で(), 計画して、()に移すことができる
- 「かふやみ」から3つ選ぼう！ (3つの「力」を選んだ理由を記入しよう)

4. この学習を終えて、自分の気持ちを表の中から3つ選び○をつけよう。その他の気持ちがある場合は、中央の口の中に記入しよう。

楽しい	むずかしい	わかった
やりたい	伝えたい	大変だ
見つけた	おどろいた	
すっきり	不安だ	わくわく
うれしい	ありがたい	こまった

(3つの「気持ち」を選んだ理由を記入しよう)

カード&台紙

A 課題に対して、計画を立てる力	F 自分の目標を設定する力
B 協力する力	G 自分の良いところを見つめる力
C 行動を振り返り、改善につなげる力	H 社会に参画し、社会に積極的に参加する力
D 最後までやり通す力	I 情報・助言を正しく理解し、自分を見つめる力
E 自己の役割を理解する力	J 将来を想像する力
K 進んで考え、気持ちを伝え合う力	P 人や地域を大切に思う気持ちや感謝する心
L 立てた目標を達成し、次につなげる力	Q 問題や他人との違いをおそれない力
M 多様な集団の中で他者とかわる力	R 自ら主体的に行動し、キャリアを形成していく力
N 計画を実行する力	S 目標設定のために計画を立てる力
O 発想(想像)する力	T 問題を発見できる力(問いを立てる力)

かふやみ表

「かふやみ」分類の例(児童・生徒用)

かかわる力	ふり返る力	やりぬく力	みとおす力
か① 多様な集団の中で他者とかわる力	ふ① 行動を振り返り、改善につなげる力	や① 問題を発見できる力(問いを立てる力)	み① 将来を想像する力
か② 進んで考え、気持ちを伝え合う力	ふ② 自己の役割を理解する力	や② 計画を実行する力	み② 自分の目標を設定する力
か③ 人や地域を大切に思う気持ちや感謝する心	ふ③ 情報・助言を正しく理解し、自分を見つめる力	や③ 課題に対応した計画を立案する力	み③ 目標設定のために計画を立てる力
か④ 協力する力	ふ④ 自分の良いところを見つめる力	や④ 発想(想像)する力	み④ 立てた目標を達成し、次につなげる力
か⑤ 社会に参画し、社会を積極的に形成する力		や⑤ 間違いや他人との違いをおそれない力	み⑤ 自ら主体的に行動し、キャリアを形成していく力
		や⑥ 最後までやり通す力	

『沖縄県キャリア教育の基本方針』(令和2年)参照

第1弾(R3作成)は教職員対象でした。右下QRコードからアクセスできます。



自分のどこを伸ばしていけばいいかわかった

グループで学習しているんな意見が聞けた

「自分の役割を理解する力」は？」

全て動画で進行します。
私が進行役の「きゃりー」です。
先生は動画をセットして、
ワークシート、「かふやみ表」、
カード&台紙を準備するだけ！



動画・ワークシート等は
こちらからアクセス！

令和4年度 プロジェクト研究

「学びに向かう力」を育成する教育の充実 ～未来につなぐキャリア教育の視点を通して(中学校)～

各教科等の実践事例集

～単元・授業例やすぐに使えるシート等を紹介！～

国語

- 「おくのほそ道」
◆「私のほそ道」俳句の創作
◆下の句作成ルーブリック

体育

- 「バスケットボール」
◆「参画」及び「公正」の指導
◆主体的に学習に取り組む態度の評価

社会

- 「地理：アフリカ州」
◆パフォーマンス課題「協力隊になろう」
◆社会力アップシート「R80」

技家

- 「計測・制御のプログラミング」
◆パフォーマンス課題
◆ワークシート

数学

- 「関数 $y=ax^2$ 」
◆評価問題・振り返り(様式)
◆活動の様子(写真)

英語

- 「Unit5 Earthquake Drill」
◆パフォーマンステスト
◆ワークシート

理科

- 「力学的エネルギー」
◆パフォーマンス課題
◆単元振り返りシート

総合

- 「産業教育実践講座」
◆農・工・商の体験プログラム
◆産業教育実践講座パンフレット

音楽

- 「合唱」
◆題材振り返りシート
◆ワークシート

特支

- 「特別支援教育に関する研修」
◆障害特性を知ろう
◆氷山モデルで考えよう

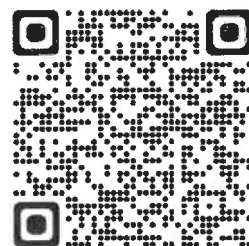
美術

- 「地域の魅力を伝える」
◆地域人材の活用
◆ICTの活用

上記の単元等の多くで、この
【自分×「力」×未来シート】を
活用しました！

科	【自分×「力」×未来シート】 ()年()組()番 氏名()					
1. 単元名						
2. この単元学習で伸ばしたい力	か ② 進んで考え や気持ちを 伝え合う力	ふ ② 自己の役割 を理解する力	や ⑥ 最後まで ねばり強く やり通す力	み ⑤ 将来を 想像する力	単元学習始め に記入	
3. 単元学習後の 自己評価	😊😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊😊	単元学習最後 に記入	
4. 2以外にも 伸びたと思う力	や ② 計画を 実行する力					
5. 3と4の理由	なぜなら...					

一例です！



「未来シート」や各教科等の
授業例・ワークシート等は
こちらからアクセス！